



RCJ Re:Quest実施報告書



公益財団法人

ボーイスカウト日本連盟

SCOUT ASSOCIATION OF JAPAN

目次

大会概要.....	1
プログラム.....	4
生活について.....	9
食事について.....	9
実行委員会開催報告.....	11
評価反省.....	13
プログラム評価.....	14
【参加者との情報共有】	29
【配給・食事】	31
【野営管理】	33
【生活における安全管理・危機対策】	35
【広報】	36
【実行委員会・事務局の情報共有】	38
【参加者申込状況】	38
【参加者】	40
【事後アンケートから】	43
【実行委員会】	56



大会概要

● 開催の趣旨

平成28年度、ローバースカウト部門の全国規模の野営大会としては11年ぶりに、RCJクエスト2016in高萩の開催が実現した。本事業には北海道から沖縄まで全国から100名を超える参加があり、盛況に終わった。RCJフォーラムと野営大会がそれぞれ隔年で実施され毎年全国事業が存在する状態を作り上げ、それによって部門のさらなる活性化を図り、日本のボーイスカウト運動、ひいては社会全体にも良い影響を与えたいという思いから、平成30年度は野営大会を実施することに決定し、平成29年度RCJ総会にて決議され可決された。

開拓プログラムをメインに据えた2泊3日のRCJクエストから泊数を1泊伸ばし、プログラムも多様にするこゝで、今後ローバースカウト部門の野営大会を日本連盟の主要大会「ムート」として継続的に開催していくためのステップとする。

● 大会の目的

- ・RCJ構成員にとって、本大会がローバースカウト活動の目標を達成する一助となる。
- ・本大会を持続的な事業とすることにより、ローバースカウト部門の発展に寄与する。

● 大会の目標

- ・様々なRCJ構成員と野営、プログラムを共にすることにより、友情を築く。
- ・プログラムを通じて参加者の自己研鑽へつなげる
- ・地域社会に貢献できる市民として必要な資質を養う。

● 大会名称

RCJ Re:Quest (略称:RCJRQ)

経緯:「ムート」開催のために探求すべきことがまだあるため、今回もquestという単語を使用する。前回に続き2度目であるため、「再び」を表す接頭辞re-を付けることで、RCJクエスト2016in高萩の発展版であることを示した。また、RCJ構成員が求めるもの(request)に応えられるだけの充実した大会にしていくという思いも込められている。

● 大会テーマ: Good Resolution

RCJフォーラム2015とRCJクエストのテーマは「Paddle Your Own Canoe.」だった。このテーマにあるように、ローバースカウトには自分のカヌーを自分で漕ぐことが求められている。ただし、やみくもにカヌーを漕ぐだけでは、自らの有為な人生を築き上げることはできない。

『Rovering To Success』の表紙絵で、「Happiness」に向かって進むカヌーの名前は「Good Resolution」号である。この名前にあるように、ローバースカウトは幸福という最終的なゴールに向けて確固たる決意（Good Resolution）を持ち、その決意に基づいて正しい判断を下しながら、カヌーを漕いでいく必要がある。

様々なローバースカウトが集い野営やプログラムを通じて交流を深めてもらうことで、それぞれの幸福、社会全体の幸福に向けて進むための「Good Resolution」を持つ契機とする。それを端的に表すために、本テーマを設定した。

- **会場：高萩スカウトフィールド**（茨城県高萩市）

平成24年に大和ハウス工業株式会社より茨城県中戸川地域に82万坪の広大な森林の寄贈を受け、茨城県や高萩市の支援・協力を得て開発を行っている。標高は約350～515mで、主な常設施設として、管理棟、野外講堂、水洗トイレ、温水シャワー、水汲み場、駐車場がある。最寄りのJR高萩駅から会場まで約13kmの距離があり自家用車で約25分、常磐自動車道高萩I.C.からは約11kmの距離があり、自家用車で約20分の場所にある。

平成28年に全国各地から100人を超えるローバースカウトが高萩スカウトフィールドに集い、RCJクエストを開催した。RCJクエストでは班生活を営みながら、橋や階段の設置、ハイキングコース等の開拓を行った。

- **大会期間**

2018年（平成30年）8月23日（木）～26日（日） 3泊4日

	午前	午後	夜間
8月21日（火）		実行委員入場	打ち合わせ
8月22日（水）	最終下見 前泊者入場・本部設営		打ち合わせ
8月23日（木）	準備作業	参加者入場・開会式・設営	ウェルカムナイト
8月24日（金）	メインプログラム 半日①	メインプログラム 半日②	ローバーカフェ
8月25日（土）	メインプログラム 一日		ローバーナイト
8月26日（日）	閉会式・撤営	本部撤営・参加者退場	最終反省会
8月27日（月）	会場清掃・実行委員退場		

- 大会参加者

24 県連盟 105 人

- 参加費

¥30,000

※会場利用料、プログラム準備費、食費、運営準備費、レンタル品等を含む

- 大会ロゴ

【制作者】

静岡県連盟三島第5団 三田あかね

【コンセプト】

Re:Questと聞いて、2016年に開催した「RCJクエスト」は一度きりじゃない、繰り返されるものなんだと感じてデザインしました。

「自分のカヌーは自分で漕げ」を意味するオールと「Re(繰り返し)」を意味する矢印で「Q(クエスト)」を表現しています。



プログラム

RCJクエストでは高萩スカウトフィールドの開拓作業を中心としたプログラム展開がされたが、当時の2泊3日では短いという声、将来的なムートの復活を目指す大会として期間を3泊4日とした。

今大会では個々の成長、今後のローバースカウトの発展となるきっかけを目指すプログラムとし、2日目の半日プログラム、3日目の一日プログラムと選択制とした。また、自主プログラムを公募し実際に2つの半日プログラムを実施した。

各プログラムでは、高度な野外活動、自己研鑽、地域奉仕とローバースカウトの教育目標に基づいたプログラムの実施展開を目指した。

〈基本スケジュール〉

8月23日（木） 1日目

〈01 開会式〉



〈設営〉



〈02 ウェルカムナイト〉



8月24日（金）2日目

〈03 半日プログラム〉

03-1 プチ・ツールド・高萩



03-2 ROVERING×SDGs フォーラム



03-3 土岳ハイキング



03-4 ウッドクラフト



03-5 Scoutube in RCJ Re:Quest (自主プログラム)



03-6 高萩音楽会 (自主プログラム)



<04 ローバーカフェ>



8月25日(土) 3日目

〈05 1日プログラム〉

05-1 茨城DAY (高萩スカウトフィールド祭り)



05-2 サイクリング



05-3 市街散策



05-4 堅破山征服



〈06 ローバーナイト〉



8月26日(日) 4日目

〈撤営〉



〈07 閉会式〉



生活について

・生活班について

今後の近隣県での活動の展開、自県での活動を盛り上げるきっかけとなるよう、RCJクエスト同様各ブロックを基本とした班構成となった。



食事について

毎日夕方に翌日昼食分までを配給し、昼食については当日朝作れるメニューとした。

		第1日 8/23(木)	第2日 8/24(金)	第3日 8/25(土)	第4日 8/26(日)
朝	献立		ホットドッグ オニオンスープ バナナ ヤクルト	ご飯 豚の焼焼き 味噌汁 白菜の漬物 りんご 牛乳	マフィン サラダ コーンスープ ぶどう
	配給食材		ホットドッグ用パン フランクフルト キャベツ 玉ねぎ ベーコン バナナ ヤクルト	米 塩鯖切り身 豆腐 長ネギ 油揚げ 白菜の漬物 りんご 牛乳	イングリッシュマフィン 卵 バター ベーコン トマト レタス きゅうり ぶどう
昼	献立	持参	サンドイッチ	おにぎり	一括配給品
	配給食材		食パン6枚切り ハム レタス チーズ	おにぎりの素 梅干し 魚肉ソーセージ 缶詰(肉系)	塩 胡椒 スティックシュガー だし 味噌 コンソメ グリーンカレーペースト 醤油 めんつゆ 料理酒 サラダ油
夕	献立	炊き込みご飯 玉ねぎと豆腐の味噌汁 ポテトサラダ	ご飯 チンジャオロース わかめの味噌汁	グリーンカレー サラダ ヨーグルト	オイスターソース ケチャップ マヨネーズ ドレッシング 乾燥わかめ おにぎりの素
	配給食材	鶏もも肉 ごぼう 人参 しめじ 油揚げ 玉ねぎ 豆腐 じゃがいも きゅうり ハム	豚バラ肉 ピーマン パプリカ 長ねぎ もやし たけのこ 油揚げ 豆腐	鶏もも肉 ナス パプリカ たけのこ しめじ ブロッコリー トマト レタス ヨーグルト	コーンスープの素 ツナ缶 缶詰 肉系 コナツツミルク缶 ミックスフルーツ缶 麦茶パック スポーツドリンク粉 食品用ラップ アルミホイル トイレットペーパー 食器用洗剤 スポンジ たわし 菜箸 生ゴミ用袋 ガスボンベ



実行委員会開催報告

【第一回実行委員会】

日時：2017年9月24日（日）13:00～17:00

場所：ボーイスカウト会館

出席：出口委員長、船橋・加藤両副委員長、安達・枝迫・内田・池田・玉井・小馬各委員
戸谷RCJ議長、中村プログラム委員

主な協議事項：
・RCJ運営委員会より趣旨説明
・基本実施要項について
・役割分担について
・今後のスケジュールについて

【第二回実行委員会】

日時：2017年12月2日（土）～12月3日（日）

場所：高萩スカウトフィールド

出席：出口委員長、加藤両副委員長、安達・枝迫・内田・池田・玉井・小馬各委員
欠席：船橋副委員長

主な協議事項：
・名称について
・プログラムについて
・広報について
・予算について

【第三回実行委員会】

日時：2018年4月14日（土）～4月15日（日）

場所：ボーイスカウト会館

出席：出口委員長、船橋・加藤両副委員長、安達・内田・池田・玉井・小馬各委員
中村アドバイザー

欠席：枝迫委員
主な協議事項：
・進捗状況確認
・プログラムについて
・茨城DAYについて
・サイト利用計画について
・スカウティングエキスポ出展について

【第四回実行委員会】

日時：2018年6月30日（土）～7月1日（日）

場所：高萩スカウトフィールド

出席：出口委員長、船橋・加藤両副委員長、
安達・枝迫・内田・三田・池田・玉井・小馬各委員
中村アドバイザー

主な協議事項：
・現地最終確認
・申し込み状況確認
・参加者対応について
・本番に向けた最終確認

【第五回実行委員会】

日時：2019年1月26日（土）

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター

出席：出口委員長、船橋・加藤両副委員長、

安達・内田・三田・池田・玉井・小馬各委員
欠席：枝迫委員
主な協議事項：・大会評価
・大会決算案

【PR活動】

全国大会スカウティングエキスポブース出展
日時：2018年5月26日（土）～5月27日（日）
場所：岐阜県・長良川国際会議場
出席：出口委員長、船橋・加藤両副委員長、 安達・内田・池田・玉井・小馬各委員
中村アドバイザー
欠席：枝迫委員

近年、全国大会へのローバースカウトの参加が多くなっている。
スカウティングエキスポ会場には常にローバースカウトがいるので、実行委員会としてブース出展をし、広報活動を行うことを決定した。
事前に大会ロゴステッカーを作成し、#RCJRQ 及び大会公式Instagramを開設した。
ブース来訪者には、ハッシュタグを用いてSNSに投稿してもらうことで、ステッカーを配布した。
期間中は非常に多くのローバースカウトに訪れていただき、大会説明等を行った。
今後の大会でも、全国大会でのPRは有効と考える。
また、多くの日本連盟役員、各県連盟役員へも周知が行えた。

評価反省

1. 目的目標に対する評価反省

目的

- ・「RCJ構成員にとって、本大会がローバースカウト活動の目標を達成する一助となる。」
 - ・「本大会を持続的な事業とすることにより、ローバースカウト部門の発展に寄与する。」
- 今大会では二つの目的があった。

一つ目の目的では、参加者が各々能動的に活動を実施した各プログラム及び野外生活に対して積極的に参加をしていたと考えるので達成できた。

二つ目の目的については今後持続的な事業として発展を続けていくことで達成されるので未来のローバースカウトに期待させていただく。

目標

1. 様々なRCJ構成員と野営、プログラムを共にすることにより、友情を築く。
2. プログラムを通じて参加者の自己研鑽へとつなげる
3. 地域社会に貢献できる市民として必要な資質を養う。

目標1について、生活班、各プログラムとより多くの仲間と交流が深められるよう班構成を都度変更し多くのスカウトと交流が出来た。しかしアンケート内にあったように、固定したメンバーで集まり盛り上がりってしまう部分もあり、初めて全国事業に参加するスカウトには入り込みにくかった部分が見受けられた点では今後改善する必要がある。

目標2について、様々な状況で全てが満足いく展開ではなかったかもしれないが、参加者全員が全てのプログラムを最後まで完了したことで自己研鑽につながったと考える。今回参加して感じたことを次は各コミュニティで更に自己研鑽を行って欲しい。

目標3について、「茨城DAY」参加者は非常に貴重な経験ができたと考える。また、別のプログラムに参加したスカウトも今回実施したことで地域とのつながりの様々な可能性を見て感じる事が出来たと思う。今後高萩スカウトフィールドで実施される事業や、各地域、各コミュニティで同様な事業がある時は積極的に参画してくれることを切に願う。

茨城DAYに限らず、幅広い年代、男女、出身地と違う仲間との交流を通じ、自分との違いを大きく感じてもらったと考える。その為今後自らの地域で貢献できる必要な資質を養えたのではないかと思う。

プログラム評価

<p>プログラム名：開会式・閉会式</p>	<p>担当者 池田章浩</p>
<p>1. 事前の準備 式次第の作成 音響設備の依頼（PAセット） 会場レイアウトの作成（集会用テント・音響セット） おきての唱和、歌、国旗・諸旗、挨拶等の依頼（参加者アンケート）</p>	
<p>2. 当日の準備、対応、スタッフの動き 23日09:00 開会式リハーサル（国旗・諸旗掲揚） 23日13:00 開会式の担当のある参加者と打ち合わせ 25日班長会議時 リハーサルの集合場所と時間を通知 26日09:00 閉会式リハーサルと担当のある参加者との打ち合わせ</p>	
<p>3. スケジュールと実際の動き （23日開会式） 13:55 ボーイスカウト日本連盟役員・来賓の立ち位置の連絡 14:00 開会式 14:30 写真撮影・オリエンテーション （26日閉会式） 10:55 参加者が集まりだす 11:00 セレモニー 11:30 集合写真</p>	
<p>4. 目的、目標に対する評価反省</p>	
<p>5. その他評価反省 [集合について] 14:00の開会式開始時点で全ての参加者がアリーナに集合していなかった。14:00開始と14:00集合の違いを伝えきれていなかったように感じる。プログラムガイドなどでは、開始時間とは別に集合時間を明記すべきだった。</p> <p>[国旗・諸旗] 国旗・諸旗掲揚では、アリーナの横に設置されている3本の掲揚柱を利用した。中央に国旗、左右に大会旗と日本連盟旗を掲揚した。左右の旗が国旗の掲揚速度を超えないようにしながら、3つがほぼ同時に掲揚されることを意識した。国旗・諸旗は大きさ1M*1.5Mで統一した。</p> <p>[リハーサル] 国旗・諸旗掲揚担当者の6名は開会式で終始掲揚柱付近に待機し、参加者のU字に加わらなかった。移動時間を短縮し、かっこよく掲揚することができた。リハーサルでは、国旗・諸旗掲揚の初めの立ち位置と、終わりの立ち位置のみ共有し、担当者6名と開会式担当者、成人指導者で掲揚時の具体的な流れを相談しながら決めることができた。 三本の掲揚柱を使う場合、タイミングを合わせる必要があるので、30分から60分程度のリハーサルが必要だと感じた。その他の役割についてはリハーサルの必要性は国旗・諸旗掲揚よりは低く、練習の時間も10分かからなかった。</p> <p>[役割のある参加者の対応] 大会の受付で役割のある参加者を見かけた際に声をかけ、開会式で役割があることを改めて連絡した。中にはメールを確認しておらず、役割があることを当日まで知らなかった人もいたが快く引き受けてくれた。</p>	

おきての唱和や歌、議長挨拶のある参加者はU字の一番端の実行委員に近い場所に並んでもらった。基本動作の確認と、出番のタイミング、移動は堂々と歩くことで統一する旨を説明した。

[その他]

ご臨席いただく日本連盟役員の方を事前に全員把握できていなかったため、紹介の際に不自然に飛ばしてしまった。もともと伝えられていた人数から変更があったので、直前にセレモニー担当者から事務局に再確認すべきであった。また、大会への参加者数も直前で増減があったことに対応できておらず、司会の際に誤った数字で紹介してしまった。大会の全体像を常に最新状態で共有・把握しておかなければならない。

閉会式中に参加者2名が熱中症を原因として倒れてしまった。セレモニー中にも熱中症が起きることを想定し、保冷剤や水分補給の行える環境を整えておくべきであった。そして、倒れた時に誰がどんな対応をするのか実行委員の中で打ち合わせを行っておくべきだった。

また、今後は、開催時期に合わせてセレモニーの時間を朝や夕方にするなど大会側のタイムスケジュールの調整なども必要かもしれない。

全ての全体行事に共通することだが、事前に全ての流れを作っておき、現地でリハーサルをしながら最終調整ができるようにすると良い。現地で流れを作っていると、作業が遅れてしまい、リハーサルの質に影響が出てしまう。

プログラム名：ウェルカムナイト	担当者 池田章浩
<p>1. 事前の準備 アイスブレイクの情報収集 進行表の作成 BGMの設定 各種資材の準備：バルーンライト（2つ）、プロジェクター、音響、発電機 オープニング動画の作成（仲間に依頼） プロジェクターの投影や音響を確認（大会前夜の22日）</p>	
<p>2. 当日の準備、対応、スタッフの動き 流れの打ち合わせ 会場の設営（バルーンライトやプロジェクターの設置）</p>	
<p>3. スケジュールと実際の動き 18:00 流れの打ち合わせ 19:00 開始予定だったが情報がしおりのスケジュールにズレがあったため、19:30開始の案内を行う 19:30 ウェルカムナイト開始 20:50 ウェルカムナイト終了</p>	
<p>4. 目的、目標に対する評価反省 （目標）様々なrcj構成員と野営、プログラムを共にすることにより、友情を築く。 ウェルカムナイトでは、野営生活や半日、1日のプログラムを共に過ごす仲間との顔合わせ・自己紹介・チームビルディングの場として機能した。このウェルカムナイトをきっかけとして、野営やプログラムの仲間とのコミュニケーションの向上と関係構築に貢献できた。</p>	

5. その他評価反省

安定した盛り上がり感で進行できた。リアクションが薄かったように感じたが、プログラムそのものが退屈だったのではなく、それぞれの仲間との初対面の緊張感が原因だったと思われる。野営生活の仲間と各プログラムの仲間が異なり、かつ初対面である可能性の高い本大会の初日の夜のプログラムとして有意義なものを提供できた。ただし、このプログラムは参加人数200人を想定していたため実施できたものであり、それ以上の規模のものではうまくまとまらない可能性が高い。今後大きな規模で大会を開催する際は、各プログラムにおいて適切なチームビルドを行えるような仕組みを構築すべきだと感じた。

1つひとつのアイスブレイクは良いものだったが、十分な時間をかけて行うことができなかった。時間の余裕とメリハリの中で参加者同士の会話があるように構成したかったが、トントン拍子で進行する必要があった。(通常15分かかる程度のアイスブレイクを10分程度で進めるなど)4回分(生活・半日午前プログラム・半日午後プログラム・1日プログラム)の自己紹介とチームビルディングを行うのに90分程度では短かった。これは特に、アイスブレイクとアイスブレイクの間のチーム分けに時間がかかったためだ。程よい時間的余裕が参加者の自発的な交流に繋がると感じた。

BGMはSpotifyでトレンド50をランダムに流した。参加者の会話を尊重したかったため、音量は下げた。BGMによって自然に盛り上げられる雰囲気が作れた。

今回の大会では事前のプログラムの班分けは行わず、このウェルカムナイトでグループになった人とプログラムを過ごすような仕組みとした。ランダム性は高いが、グループ作りに時間がかかってしまうため、大会の前に班分けが行われている状態が望ましいと感じた。また、これより大きな規模の大会ではそのような班分けは難しくなるため、お勧めできない。

全体プログラム全てに共通するが、リハーサルや打ち合わせの時間とその流れまで綿密に計画しておくべきであった。大雑把な打ち合わせやリハーサルしか行っていなかったため、当日の流れは少々まとまりがなかった。特に、リハーサルではリアルタイムで進行してみて、動きや時間のチェックや司会の原稿チェックなどの微調整を行う。

プログラム名 プチ・ツールド高萩	担当者 枝迫 雄大
1. 事前の準備 自転車点検・空気入れ ルート下見(車両・自転車) 地図印刷	
2. 当日の準備、対応、スタッフの動き 参加者からボランティアを募り、自転車を倉庫から出してもらう。 終わった後はまた倉庫にしまってもらう。	
3. スケジュールと実際の動き 08:30 ボランティア集合自転車出し(15分で完了) 09:00 AM集合・オリエンテーション・コース決め・準備 09:40 出発 車両巡回 12:10 AM全員到着 13:00 PM集合・オリエンテーション・コース決め・準備 13:40 出発	

<p>車両巡回 16:00 PM全員到着 16:15 片付け</p>
<p>4. 目的、目標に対する評価反省 このプログラムは高度な野外活動の要素を持っており、RSに必要な体力作りやリフレッシュに大きく役立ったと考えられるため、「RCJ構成員にとって、本大会がローバースカウト活動の目標を達成する一助となる。」という目的に沿ったプログラムであったといえる。</p>
<p>5. その他評価反省 つらすぎた、という意見が多かったが、つらすぎてちょうど良かったのではないかと考えている。とはいえ、途中リタイアの申し出もわずかにあった。その点で予定にはなかった車両での巡回を行ったことはとても良い判断で、携帯の電波が届かない道中でリタイアする人も車両で運ぶことができた。また記録もしっかり残すことができた。加えて、飲料も車両で運び、給水所としての役割も果たすことができた。ただしこれは、一本道が続き、コースが限られていたからこそできたことではある。前日にコースの一部が土砂災害を受けていることがわかり、走れる道が制限されたため、さらに管理しやすくなっていた。</p>

<p>プログラム名 Rovering×SDGs</p>	<p>担当者 安達保乃香</p>
<p>1. 事前の準備 自身でフォーラムをコーディネートすると決めた以上、SDGsをもっと深いところで理解しておく必要があった。参加者の到達点をどこにするのかをより明確化し、そもそも参加者はどこまでの事前知識があるのかを知っておいた方がよかった。それらがかけていたため、パワポを何回も作りなおし、ギリギリまで準備をしなければならない状態になったと反省している。</p>	
<p>2. 当日の準備、対応、スタッフの動き 雨天で場所が新平荘に変更となり、スクリーンやプロジェクター、机等を支援者3人とともに準備した。テーブルの島を4つつくり、4～5人ずつでグループ分けした。スタッフはプレゼンと進行、タイムキーパー、ファシリテート等を行った。</p>	
<p>3. スケジュールと実際の動き スケジュール SDGsに関する基調講演 30分 グループトーク 0. SDGsに関連する経験、気になるトピックなどのシェアリング 5分 1. 世界の諸問題についての話し合い(グループの方向性模索) 10分 2. それに対し市民として何ができるのか 15分 3. 2の内容をローバリングに落とし込み 10分 4. ワールドカフェ 8分×3ラウンド 5. もとのグループでまとめと文言化 15分 6. 全体シェア 5分×4班 実際の動き グループトーク1. 2. 3. 5を約5分ほど、ワールドカフェを2分ずつ延長した。合計で予定時間を30分以上オーバーしてしまった。 やはりフォーラムを2時間でやるというのはかなり難しい。時間配分を詳細に決めていたもの</p>	

の、その通りにはいかなかった。しかし、参加者が想像をはるかに超えて活発な話し合いをしてくれたからこそその結果だし、他に支障が出なかったからよかったのではないか。

4. 目的、目標に対する評価反省

目的については、「ローバースカウト活動の目標を達成する一助」という点において大いに貢献できたのではないかと。

今回は、世界の諸問題に目を向け、それに対して一市民として私たちに何ができるのか、そして、それをローバリングにいかにして落とし込み、ローバースカウトとして何ができるのかを考え、最終的には文言化してみるという形をとった。「ローバリングを通じて、私たちは“Good Citizen”となるを目指している。だからこそ、世界をよりよくするための指針であるSDGsについて考える必要は大いにある。」という根本的なことを意識して、内容が考えられたのではないだろうか。

目的に関しては、三つの要素全てに対しアプローチができたのではないかと。ワールドカフェという話し合い方法を用いたことで、より多くの考えに触れ、それぞれの思考が深められた。

5. その他評価反省

想像以上に話し合いが盛り上がり、一人一人が深く思考していた点はかなり素晴らしかった。だが、一部の班は、具体的なアプローチ方法を見出す際にかかなり苦戦していた。ファシリテートする側として引き出しを増やしておくこと、参加者の理解度に沿うことがもっと必要だった。また、せっかく各班が文言化したのだから、それをしっかりまとめて全体に共有、RCJに提言するなど、なにかしらの形に残せたら尚良かった。そして、今後の活動に直接つながるような形にできたらさらによかった。

プログラム名 土岳ハイキング

担当者 小馬加奈子

1. 事前の準備

ルートの確定・下見

→事前の実行委員会で行った。実際に担当者が下見に行くことができず少し道に迷ってしまう部分があった。

地図の印刷（高萩ガイドブックから／国土地理院から高萩山間部の地図をダウンロード）

→高萩スカウトフィールドの場所を口頭では確認したが、記載していなかったので少し混乱させてしまった。

ガイドブックの方にはいくつかのルートが記載されており、同じルートで帰ってくるということを伝えきれておらず、山の向こう側に行ってしまうグループがあった。

入退場、入山チェックシートの作成

→入退場チェックシートは、出場チェックが終わった後に本部に置いておくことで、入場チェックの際に担当がいなくても本部で行うことができた。

2. 当日の準備、対応、スタッフの動き

8:00 お茶の用意

9:30 緊急用車両 フィールド発

9:45 登山口着、入山チェック

10:30 下山チェック完了、登山口発

10:45 フィールド着、入場チェック

11:15 入場チェック完了

12:00 お茶補給

13:15 緊急用車両 フィールド発

13:30 登山口着、入山チェック

15:00 下山チェック完了、登山口発

15:00

15:15 フィールド着
3. スケジュールと実際の動き 9:00 集合、出場チェック 9:30 登山口到着、入山チェック 10:30 下山チェック 11:30 全体フィールド着確認 終了 13:00 集合、出場チェック 13:30 登山口到着、入山チェック 14:30 下山チェック 15:10 全体フィールド着確認 終了
4. 目的、目標に対する評価反省 様々なRCJ構成員と野営、プログラムを共にすることにより、友情を築く。 →前日にウェルカムナイトで作成したグループで行ったことで、当日にはお互いに呼び合う姿が見られた。 グループを基本としているが、グループに関係なく写真を取り合ったり、話をする中で友情を深められたと思われる。
5. その他評価反省 出発時のアナウンス不足からか、帰りの道を間違えてしまったグループがあった。電波が通じる人がいたため、対処することができたが、多くの人が電波が通じない状況であることを踏まえてもっと考えておけばよかった。 下見に来た人と、実際に担当した人が違ってしまっていたために、担当者が少し道に迷った場面があり、入山チェックを行うことができなかった場面があった。 時間的には、2時間をめいっぱい活用したグループが多く、ちょうど良かったように思う。 天気が悪く、せっかくの景色を見ることができず残念そうであった。 プログラムとしてはチームを組んでハイキングをするというものだけで、特にポイントハイキング的なプログラムを設置してなかったのですが、その状況を楽しんで話をするグループもいれば、何らかの目的をもってハイキングに取り組みたいという意見もあり、すごく興味深く思った。

プログラム名 ウッドクラフト	担当者 池田章浩
1. 事前の準備 ・高萩スカウトフィールドの備品の確認（下見時） ・高萩スカウトフィールドの備品のリストアップ 備品（ナタ、オノ、ノコギリ）	
2. 当日の準備、対応、スタッフの動き ・備品の運搬 ・担当者によるオリエンテーションと安全対策の説明 ・必要備品の補填や会場の巡回、参加者との会話や安全管理 ・残り時間のアナウンスと片付け、集合写真の誘導	

3. スケジュールと実際の動き

08:30 備品の運搬

08:50 会場の最終確認とプログラム参加人数の確認

09:00 オリエンテーション

09:05 プログラム開始

10:40 片付け開始

10:55 集合写真

11:00 プログラム終了

12:50 会場の最終確認とプログラム参加人数の確認

13:00 オリエンテーション

13:05 プログラム開始

14:40 片付け開始

14:55 集合写真

15:00 プログラム終了

15:10 備品の返却

4. 目的、目標に対する評価反省

(目標) 様々なRCJ構成員と野営、プログラムを共にすることにより、友情を築く。

ウェルカムナイトで構成したチームを基本としてプログラム展開した。

しかし、プログラムの特性上、個人作業が基本となるため、チームでは作品に対する相互のフィードバックを基本とするものであることを説明し、展開した。三、四人程度で輪になって座り、作業しているところが多かったので目標を十分に達成できた。

(目標) プログラムを通じて参加者の自己研鑽へとつなげる。

参加者は、スカウトフィールドの広場にある様々な大きさの材木を、それぞれの理想の大きさ・形に切り分けて加工した。スプーンやお皿のような生活雑貨を作成する人もいれば、班サイトに設置する工作物を作っている人もいた。

5. その他評価反省

プログラムで作成したベンチやシーソーがプログラム後に他の参加者や茨城DAYの参加者から利用されていたため、作った人のニーズが他の人のニーズにも一致して、プログラムの第三者からもこのプログラムが評価された。

最初は何をしていいか迷っているような参加者たちも、工具を手にして、木を探すことで様々なアイデアが浮かんだようだった。プログラムガイドの時点で趣旨やどのような材木が用意してあるかを共有することで、よりスムーズにプログラムに取り組めたのかもしれない。お皿、スプーン、チーフリングなどの小物から、椅子やベンチ、班サイトの備品、モニュメントに至るまで幅広い作品が出来上がっていた。

丸太から必要な部分を切り出して作品を作っているのが、切り出す部分でプログラムが終了する。数名の作品は未完成のまま終わってしまった。実用的な面まで考えて細部の加工も含めると1日がかりのプログラムになってしまう。また、小さな作品を作っている人向けに、ヤスリなどの工具があるとさらに作品の精度が上がり、幅が広がった。

午前は雲行きが怪しかったので、広場ではなくスカウトホールの下で実施した。

午後は天気が回復したので、広場でプログラムを実施した。雨天時の展開場所を決めておけたことと、雨天時と晴天時の展開場所が近かったことから、円滑にプログラム展開ができた。

大きな作品は大会の後に保管するすべがなかったため、残せるような形の検討が必要だった。しかし、安全面や管理面での課題は残るため、半日のプログラム展開の中で残せる程度の完成品まで作成するのは困難であった。この問題は開催地の諸事情との兼ね合いもあるので、今後統一的

な対応はできないだろう。

用意できる備品とできない備品を明確化し、事前に伝えるなどの対応をするべきであった。ほぼ全てのプログラムに共通するが、プログラムガイドに記載した事前の情報が少なかった。ただ、ローバースカウトなので事前に何をしたいか考えて準備に当たれば、不明点について参加者側からの問い合わせがあっても不思議ではなかったと思う。初めから全てが用意してあり、手ぶらで参加できるプログラムという認識を持たせてしまったことに問題があったかもしれない。

プログラム名 ローバーカフェ

担当者 池田章浩

1. 事前の準備

事前にスウェディッシュトーチを作成。高萩スカウトフィールドに置いてある丸太にチェーンソーで4本線をひいた。事務局やプログラム委員の方にも協力していただき、事前に15個のトーチの作成を行った。

着火剤とライターの準備

ソフトドリンクの準備

2. 当日の準備、対応、スタッフの動き

18:00 スウェディッシュトーチの設置

18:30 ソフトドリンクの配置

19:00 受付と受付後の案内

19:30 受付に参加者が並ばなくなった頃合いを見計らってから、実行委員もプログラムに参加

3. スケジュールと実際の動き

19:00 受付開始、受付後に参加者を会場に案内

21:00 ローバーカフェ終了

21:30 スウェディッシュトーチの残り片付け終了

4. 目的、目標に対する評価反省

(目標) 様々なRCJ構成員と野営、プログラムを共にすることにより、友情を築く。
生活班や半日プログラムを過ごした仲間をはじめとして、趣味や大会の参加歴などの共通点をもつ仲間との対話の時間を提供することができた。

5. その他評価反省

プログラムガイドには、参加者に期待させるような抽象的なことを書いた。そのため、このプログラムの自由で自発的な交流という趣旨を理解していない参加者も少なくなかった。そのため、初めの数分間はどのように参加し、何をしたらいいかわかっていない様子だった。プログラムガイドを事前に読んでいない参加者がいたことも十分に考えられるが、大会後のオリエンテーションなどで改めて参加者に伝わるように説明するべきだった。

大会として、スウェディッシュトーチの提供のみ行い、後のことは参加者間でルールを決めて秩序を保ってもらおうプログラムだった。そのため、話し合いのテーマも大会側から特に指定しなかった。その仕組みを理解してからは、様々なグループを作って流動的に交流を行う参加者もいたため、うまくプログラム展開ができた。しかし、一部で雰囲気壊してしまうほどにうるさく騒いでいる参加者もいた。空気が読めないローバースカウトがいることはとても残念だった。

着火剤とライターで火をつけていたが、途中から参加者にバーナーを貸してもらって使用していた。バーナーの方が安定した火を短時間でつけられる。

19:00開始で21:00終了の自由参加・自由退場プログラムだったが、ほとんどの参加者が19:30までに入場し、8割のスウェディッシュトーチが最後の時間まで使われた。21:00まで参加していた人たちは、21:00の終了を告げると名残惜しそうに解散していた。このような対話と交流の時間は参加者にとって特別な意味を持つものであるようだ。

会場は暗いため、参加者の入退場の管理は全て受付で行うのが良い。スウェディッシュトーチの数に合わせて入場グループの管理を行うことで、円滑な案内ができる。また、ヘッドライトを消してプログラムに参加してもらうことや、飲み物は自由に飲んでいいこと、椅子を持参することなどの説明を受付の待ち時間で行うと参加者への情報提供が円滑であった。

スウェディッシュトーチは、切り込みが多いほど風通しがよくなり火力が強くなる。切り込みが少ないと途中で鎮火してしまう。4本の切り込みがちょうど良かったようだ。21:00の段階でうっすらと燃えていた。また、丸太は十分に乾燥して保存する必要があり、直接地面に置かずに保管する。伐採直後の丸太は水分を含みすぎているので、材料として不適切。

プログラム名 茨城DAY	担当者 枝迫 雄大・出口 裕理
1. 事前の準備 茨城県教育委員会との調整（日本連盟経由） 参加者（茨城県内の小学生）募集用のチラシ作成 茨城県教育委員会との最終調整 薪割り（キャンプファイア用・火おこし体験用） ハイキングコース決め・リボン付け ひも切断・石拾い（ロープ結び体験用） 参加者用ネックチーフ巻き バス手配（市街散策と合同） 班分け及び担当RS決定 ハイキングコースリボン付け	
2. 当日の準備、対応、スタッフの動き 運搬物準備 給水所設置（総務班）	
3. スケジュールと実際の動き 09:00 RS参加者集合・小学生受け入れ準備開始 09:40 オリエンテーション・現場下見完了 09:50 小学生到着（from 駅） 10:00 会場設営完了 （営火場：椅子並べ、薪運び 広場：かまど設営、薪運び、作業機設置） 10:10 開会式開始 10:20 スカウトホールへ移動 オリエンテーション開始 11:10 プログラム第1部開始 12:00 昼食 12:50 プログラム第2部開始 13:50 プログラム第3部開始 15:00 閉会式開始 15:20 バス出発	
4. 目的、目標に対する評価反省 ・野外体験活動を通して、「自然」「行うことによって学ぶ」「集団活動」の魅力を体感してもらい今後の学校生活の充実の一助とする。（小学生参加者を対象とした目的） →アンケートを取った結果、全員から「楽しかった」との回答が多く得られたことから達成できたと判断する。 ・RCJ構成員にとって、本大会がローバースカウト活動の目標を達成する一助となる。（大会全体の目的）→開催地である茨城県の小学生を対象とした奉仕活動であることから、ローバー活動の大きな柱であり、今大会目標にもある「地域社会に貢献できる市民として必要な資質を養う」の達成につながったことから目的は達成されたと判断する。	

5. その他評価反省

- ・本プログラムは今大会唯一の地域奉仕活動であったこと、県教育委員会との協力で実現された点で、非常に重要なプログラムだったといえる。
- ・当日まで準備が不十分であった。これは、事前の準備で、十分な趣味レーションが行えなかったことや連盟との連携役とプログラムの担当を異なる実行委員が務めていたということで情報共有がスムーズにできなかったことが原因としてあげられる。仕事の分担と情報共有を細かく行うべきだった。

・準備不足には以下があげられる。

- バスでの送迎担当を設けていなかった（参加者へ事前に手伝いを頼むべきだった）
- 子どもの名前について、読み方を訊いていなかった（アンケートに欄を設けるべきだった、当日はバスへ乗車する際に訊くことで解決）
- 設営時、現場が3つあったことで、具体的な指示を出せなかった（事前に設計をして、監督役を参加者に頼むべきだった、当日はゲストで来場していた指導者の方、参加者の班長が監督を行った）
- 名簿に重複があった（前日キャンセルが原因、対策が必要）
- 暑さで体調を悪くする参加者が出た際、対応が遅れた（救急担当が必要）

・班行動について

- 小学生4～6名で組まれた班それぞれにRSが2名～3名入って行動した。
- 班分けは参加希望者を学年ごとに振り分ける形で行い、各班に高学年低学年までが一緒に活動できるようにした。近い学年をまとめる案もあったが、男女比やRSへの負担が偏ることから上記の方法で行った。
- 参加者の兄弟で未就学児が応募してくることがあったが、体力的にも大変そうだった。また当日に友達と同じ班がいい、などの要望があり、対応する必要があった。

・ハイキング・茨城県ブースについて

- NEALリーダー3名にハイキングの引率を担当していただいた。
- 森の中を歩いて自然を楽しんでもらったり、場内に設置されたアスレチックで思いっきり体を動かしてもらったりした。特に最後の大ブランコは人気で、そのスリルのため、会場内には悲鳴が響いていた。教育委員長の「1番楽しかったのは？」の呼びかけに「ブランコ！」と大きな声で答える小学生が何人もいた。
- 同時にハイキングコースに入れる人数に限りがある為、茨城県教育委員会にブース運営をお願いし、茨城県の展示及び茨城県クイズを実施して頂いた。

・火おこし・ロープワーク体験について

- 茨城県連盟指導者にマッチを擦り、火をおこし、マシュマロを串に刺して、焼いて食べてもらった。マッチを初めて使うという児童も多く貴重な経験となった。
- 同時進行でひもを使ったキーホルダー作りや、飾り結びの指導を行った。茨城県の指導者の方が担当。
- 茨城県の指導者の方との連絡ができておらず、内容について当日すり合わせるような状況だった。結果、ロープワークというテーマで、お互いに別々のプログラム内容を考えてきていた。選択肢が増えたという意味ではよかった。
- 予想以上に時間がかかり、閉会が遅れた（市街散策とバスを共有していたことから、他のプログラム終了にも影響が出た）

・キャンプファイアについて

- スカウトのファイアソングを中心に、定番のキャンプファイアを体験してもらった。遠き山に陽は落ちて→燃えろよ燃えろ→月下の営火→クワガタ→アレレ→アブラハム→鬼のパンツ（ウサギのパンツ）→TOTO便器→（ユポイヤイヤ）→別れの営火→チクサクコール。
- 初めて参加する人でもノリ易いようにと体を動かすソングを多く入れたが、営火場の風通しが悪かったこと、昼に行ったこと、火を焚いていたことが重なって、暑さで体調を悪くする参加者が出てしまった。

・プログラムを通して

- 子供たちもスカウトも1日の終わりには充実した顔で、疲れ切っていた。お別れの時、一日を過ごしたスカウトたちに「帰りたくない！」としがみつく子供たちもいた。
- 本大会の中で唯一の地域奉仕活動であり、茨城県の協力のもと実施しているという点で、非常に重要

なプログラムであった。プログラム終了後の参加者は、片付けに対し非常に積極的で、自分からできることを探して動く様子が見られた。「『奉仕活動は楽しい』という充実感がそうさせている」と、参加者の口から聞くことができた。

とはいえ、余裕のない運営であったことは事実で、参加したRSにもそれは伝わっていたと思う。

(協力を得るにしても事前に連絡することが必要である。)

また、このプログラムは1つとカウントしているが、厳密には4つのプロを内包したものであったことから、やはり実行委員や手伝いを数人割り当てる余裕が必要だと感じる。

プログラム名 1DAYサイクリング	担当者 安達保乃香
1. 事前の準備 事前の準備 ルート設定、下見 ルートは地図上で策定→車で下見の流れで決めたが、あまりにもきついという声もあったため、自転車で回ってコースを決めることも必要だったのではないかと。 地図印刷 チェックポイントを事前下見の際に決めておけば地図上で示せた。 車両メンテナンス 支援者と共に全ての車両の空気詰め、ブレーキ確認等を行った。 備品の手配 車にはパンク修理キットや空気入れ、ジャックを積んだが、工具類やOS1などをもっとしっかり準備しておけばよかった。さらに、熱中症対策の塩飴などばらまけばよかった	
2. 当日の準備、対応、スタッフの動き 支援者と共に自転車を倉庫から出し、ルール等説明。出場チェック終了後車でチェックポイントへ。全員の通過確認後巡回した。参加者を見かけたら声をかけ、体調を確認。リタイア者はこの際にリタイア宣告した。随時リタイア者をフィールドに輸送していたため、到着チェックができなかった。 ルール説明の際は、前日の半日サイクリングでリタイアが多数出たことを考慮し、同じ道をいつて帰ってくる短いルートを強く推奨した。	
3. スケジュールと実際の動き スケジュール 8:50 自転車出し 9:00 集合、チーム分け、ルール説明、動作確認、ルートの話し合い 9:30～ 出場チェック 9:40～ 車両出発・巡回 11:30-12:30 チェックポイントオープン 15:00 フィールド着、到着チェック 実際の動き 8:50 自転車出し 9:00 集合、チーム分け、ルール説明、動作確認、ルートの話し合い 9:30～ 出場チェック 9:40 出場チェック終了 9:50 車両出発 10:30～11:30 チェックポイントオープン 11:30～ 巡回、リタイア者回収 15:00～到着チェック(本部でやっていただいた)、安達はリタイア者回収(計4名)と巡回を続けた 15:50 到着チェック完了	

想定よりもかなり早いペースで参加者が市街地に着いたため、チェックポイント開設を1時間早めた。多くの班が従来の推奨コースではなく、来た道を折り返したようだ。最後のほうにリタイア者が集中し、その対応をしていたため、到着チェックを本部でやっていただくことになってしまった。

4. 目的、目標に対する評価反省

ランダムに決めたグループごとでの行動だったため、新たな友情がおおいに生まれたと思われる。また、かなり長めで登りがきついコースであったため、体力的にも精神的にも研鑽できるいい機会となったのではないだろうか。

5. その他評価反省

電波が不確実な状態において、特に後半の巡回と声掛けは、熱中症を出さないという点でも必須だと感じた。リタイア者の対応や巡回で追われて到着チェックまで回らなかったため、支援者や担当委員をもっと配置すべきと感じた。

<p>プログラム名 市街散策</p>	<p>担当者 池田章浩</p>
<p>1. 事前の準備 茨城DAYバスとの兼ね合いを調整して、出発時間や高萩駅集合時間を決定 電子地形図25000と高萩駅北部観光マップの印刷（グループごと） 高萩駅からの帰宅時に市街散策人数を確認する担当者の依頼 大会1日目（23日）の夜に事前説明会を開催</p>	
<p>2. 当日の準備、対応、スタッフの動き 地図などの配布 オリエンテーション バスの見送り</p>	
<p>3. スケジュールと実際の動き 08:20 アリーナ集合 08:30 スカウトフィールドをバスが出発（見送り、担当者は本部待機で別業務） 15:50 高萩駅を出発し、スカウトフィールドへ向かう 16:20 スカウトフィールド到着</p>	
<p>4. 目的、目標に対する評価反省 （目標）様々なrcj構成員と野営、プログラムを共にすることにより、友情を築く。 ウェルカムナイトで作成した5名程度のグループで行動してもらった。各グループで行き先を決定した。日帰りの小旅行を通して友情を築くことができた。</p>	
<p>5. その他評価反省 23日の夜に行ったオリエンテーションの時点で、プログラムガイドに記載された集合場所・時間について把握している参加者が半数程度だった。情報共有について十分でなかったため、事前オリエンテーションで最新情報の共有を行えてよかった。</p> <p>ウェルカムナイト（23日夜）でグループ分けしたため、グループで話し合いながら市街散策の行き先について考える機会がよくなかった。参加プログラムが決定した時点で、市街散策の行き先について各々が希望を調べておき、グループ分けの後にその調査をもとに行き先を確定できるような流れがあるとよかったかもしれない。プログラム展開について、参加者の決定の自由度は高かったが、準備が不足してしまうものになってしまった。</p>	

茨城DAY参加者の帰りのバスの高萩スカウトフィールド出発が遅れてしまったため、高萩駅到着も予定時刻よりも20分ほど遅れた。市街散策参加者と連絡を取る手段が高萩スカウトフィールドの固定電話しかなかったため、参加者への連絡ができずに不安にさせてしまった。

プログラム名：堅破山登山	担当者：小馬加奈子
<p>1. 事前の準備 ルートの確定・下見 →事前の実行委員会と、開催2日前に下見を行った。実際に担当者が下見に行くことができたので、参加者からの質問に答えることができた。 地図の印刷（高萩ガイドブックから／国土地理院から高萩山間部の地図をダウンロード） →高萩スカウトフィールドの場所を口頭では確認したが、記載していなかったので少し混乱させてしまった。</p> <p>入退場、入山チェックシートの作成 →入退場チェックシートは、出場チェックが終わった後に本部に置いておくことで、入場チェックの際に担当がいなくても本部で行うことができた。</p>	
<p>2. 当日の準備、対応、スタッフの動き 8:00 お茶の用意 9:15 緊急用車両 スカウトフィールド発 10:00 スタッフ登山口着 10:30 一時帰還 11:00 フィールド着、お茶補給 11:30 フィールド発 12:00 登山口着 14:30 登山口発 15:00 フィールド着</p>	
<p>3. スケジュールと実際の動き 9:00 集合、出場チェック 10:00 登山口到着、入山チェック 12:30 グループ1、2、4下山チェック 14:00 グループ3下山チェック 15:30 全体フィールド着確認 終了</p>	
<p>4. 目的、目標に対する評価反省 ・様々なRCJ構成員と野営、プログラムを共にすることにより、友情を築く。 →前日にウェルカムナイトで作成したグループで行うことで、プログラム日までにそれぞれで親交を深めていたようだ。 出発の際に写真を取ってきてほしいことをアナウンスしたことや、登山中に現れる奇岩たちを通して、多くの写真を撮り、友情が深まる機会となったようだ。</p> <p>・プログラムを通じて参加者の自己研鑽へつなげる →時間内で最大限にそのプログラムに参加するグループ、早めに切り上げて生活を充実させるグループとに分かれており、個々人の目的に従ってプログラムを活用できたように思う。</p>	
<p>5. その他評価反省 登山口までの道が悪路のため、後部座席に積んでいたジャグに入っていたお茶が溢れてしまっていた。そのため、入山チェックの時にはジャグのお茶ではなく車両に積んであった水を提供することで対応できた。また、入山チェックが完了した後に一度フィールドに戻って総務班の方々にお茶を入れていただいた。その間、チェックポイントには誰もいることができなかったため、担</p>	

当者も単独での行動でなく、2人以上で運営に当たれたらよかったかと思う。
 チェックポイントで下山時にグループの様子を見てみると、談笑をしながら帰ってくるグループが多く、写真を見てもグループに関わらず充実した時間を過ごせたのを感じた。
 ただ、登山口までの距離があり、そのわりには山自体の充実度が低かったため、参加者からは登山プログラムとしては不満のでもところもあったようだ。
 想定よりも時間的に余裕があったので、早めに下山してサイト整備を行うグループがあった。逆に、時間いっぱいまで散策を楽しんで下山するグループもあった。

プログラム名 ローバーナイト	担当者 池田章浩
1. 事前の準備 参加者アンケートにて、有志の出し物の収集 出し物のある参加者との打ち合わせ 進行表の作成	
2. 当日の準備、対応、スタッフの動き 17:00 天気予報雨で雲行きが怪しいため、雨天会場の準備（配置・音響）。参加者にその連絡 18:00 食事 18:30 出し物のある参加者と会場にて打ち合わせ	
3. スケジュールと実際の動き 19:00 ローバーナイトスタート 音響：2名 照明・参加者対応：1名 司会：1名 21:00 ローバーナイト終了	
4. 目的、目標に対する評価反省 （目標）様々なRCJ構成員と野営、プログラムを共にすることにより、友情を築く。 それぞれの特技や経験をもとにした出し物によって参加者全員が参加型で一体感をもち楽しむことができた。 （目標）プログラムを通じて参加者の自己研鑽へとつなげる。 音楽を中心としたローバーナイトではなく、出し物を通して主体性を大切にしたいものだったので、ローバーらしいものとなった。	
5. その他評価反省 参加者との調整が必要な出し物はできる限り、大会が始まる前に済ませておきたい。しかし、参加者も大会が始まってから出し物の詳細を決めることもあるため、定期的な連絡と動きの弾力性が重要だと感じた。ただ、参加者アンケートやプログラムガイドの配信時にローバーナイトについて十分な説明ができていなかった点は、有志の出し物を検討していた参加者に不親切であり、改善すべきであった。 プログラム構成の工夫として、初めに誰でも知っている出し物で盛り上げてから、参加者を円形にし中央注目形態へ、最後には前方の舞台注目形態へと変わっていった。その流れに合うように有志の出し物の順番を調整した。最後はライブで終わるようにしたことでローバーナイトを綺麗に終了することができた。ライブ時に前方以外の照明を消したのも良い雰囲気を出せた。 最後のライブは、設置や音響の調整が必要であり、5分近く参加者を待たせる形で準備をすることになってしまった。参加者の注目をライブの準備からそらすようなプログラムの提供や、動画の出力など調整すると良かった。 いつでも水分補給できるようにソフトドリンクコーナーを設けたのは良かった。活用してくれる	

参加者も多く、雨天ではあったが結果的に途中で倒れる参加者はいなかった。

司会からは、最低限の出演者の紹介（県連盟・名前）を行うようにした。参加者自身に自己紹介をさせてしまうと、会場がシラけてしまうようだ。ライブのように出演者にも注目してもらいたい場合をのぞいて、自己紹介は最低限が良さそうだ。

Spotifyでトレンドの音楽をランダムで流した。BGMがあることで、会場が自然に盛り上がる。アナウンスや説明中は音量を下げ、その他は音量を大きめに維持することで良い雰囲気は保たれる。また、ローバーナイト開始前からBGMのみ流しておくことで、徐々に会場の意識をローバーナイトに向けることができる。

有志の参加者から指定のあった音源は、事前に確保し、スタンバイさせておいた。そのため、貨物列車やソーラン節、ダンシングヒーロー、スタンツなど、BGMの力も借りて大いに盛り上がることができた。

様々な説明が必要な出し物よりも、感覚やその場のノリで真似できてしまう出し物がよい。それらをメドレーに近い形で展開し、リズム感や流れが大切にすると参加者のテンションを高く保つことができる。

ローバーナイトのような参加者との一体型のプログラムは、参加者が十分に大会の環境に慣れた時期（今回の場合は最終日の夜）に行うと、安心して一緒に盛り上がってくれる参加者が多い。

今回の大会は100名程度の参加者だったため、雨天時の会場の変更や対応が比較的容易であった。さらに大きな規模で行う場合は、雨天時に会場を変更できなくなるだろう。集会用テントなどを有効活用しながら、雨天時の展開についても事前に検討しておき、安全基準なども決めておくべきだと感じた。

各出し物は10分を目安にタイムスケジュールを組んだ。出し物そのものは5分～7分程度であっても、参加者の移動や出し物の説明などの時間を含めると10分で見積もったのは妥当であった。バンドのみ打合せの上15分で見積もっていたが、準備と調整に時間がかかってしまい、始まりから終わりまで25分程度かかった。

司会のような前面に出る人は、盛り上げが得意で臨機応変な人が担当するのが良い。今回は、その点で大成功だった。ローバーナイト担当者は、出演者管理と照明という自由に動ける役割だったため、少々の問題が起きても対応することができた。さらに規模が大きくなれば、担当者は全ての役割を分担して見守るのみが良いだろう。

一貫した担当者が3つの夜プログラムの位置付けや役割を差別化して企画・計画できたので、それぞれの特色を活かしながら提供することができた。しかし、これはプログラムチームとしてもっと話し合っただけで分担して行くべきであったと反省している。一人で抱えることも多かったため、動きや意識の共有が十分でなかった。そのため、他の実行委員からは大会前に夜プログラムの違いがよくわからないと指摘されていた。大会当日になってから全体像を共有し、分担することになってしまった点は個人的な反省点である。全体行事は特に協力して作ることが大切で、規模が大きくなるほど明確な分担と十分な準備・調整が必要になる。このような役割を担った人には、一人でできることの限界を認識し、仲間への働きかけを積極的に行って欲しい。

【参加者との情報共有】

情報共有の手段（加藤）

<事前の準備>

参加者向けの情報は、参加申し込みの際に記入してもらったメールアドレスに事務局を通じて配信した。また、参加者募集が終了し生活班を構成した後は、全ての班長と内田委員、加藤副実行委員長が入ったLINEグループが作られ、即時のレスポンスが求められる連絡はこのLINEグループで対応した。

<当日の対応>

会場は電波が入りにくい環境であったため、基本的には班長会議を通じて参加者に情報を伝えていた。どうしても即時の共有が必要な情報については、その時手の空いている委員が各サイトまで伝達に走った。

<反省点>

- ・事務局に配信をお願いした後のリマインドを怠ったせいで配信が遅れるケースがあった
- ・直接各サイトに情報を伝えるのは効率が悪かった

<提言>

- ・本部に、参加者向け掲示板とその担当委員を設け、参加者にこまめなチェックを促す
- ・スタッフだけでなく班長にも無線を持ってもらう

参加者向け事前アンケート（内田）

<事前の準備>

大会1ヶ月ほど前に実施した参加者向け事前アンケートでは、「プログラム」「セレモニーの奉仕」「交通手段」の3点を伺った。

生活班班長のLINEグループを活用することで未回答者へ伝達を行った。回答率としては期限内が85%程度、翌日には残りの人にも回答をいただき100%になった。

<反省点>

- ・参加者の情報を名前しかいただかなかったので、回答をもらってるかチェックするのが大変だった。
- ・プログラム分けの発表が遅れてしまった。
- ・(参加者目線で)アンケートを送れているかどうかの確認がしづらかったため、何度も送ってきた人がいた。
- ・参加者からアンケート回答後にメール、委員に直接等で変更希望を出すものがいた。

<今後への提言>

- ・チェック用に県連を聞くorなにかの判別IDみたいなものを作ってそれを打ってもらう等の工夫があると便利。また「受け付けました」程度のメールが返ってくると何度も送ってくれる人は減りそう。
- ・アンケート回答後の変更は参加者個人と実行委員個人でやりとりすると情報の共有がしづらいので専用メールアドレス等でのやりとりがよい。

しおり（内田・三田）

<事前の準備>

【三田】

内田が内容を作成し、修正とデザインを三田が担当した。

【内田】

7月中盤に暫定版しおり、7月末に完成版を配布する予定で作成した。

当初はドライブを公開して参加者からのQ&Aも載せる予定だった。
暫定版しおりは1日遅れ、完成版しおりは8月に配布した。またプログラム編成を載せたものを当日に配布した。
Q&Aについてはメールが来たものには対応し、それを班長ラインで流すことで全体に流した。

<当日の対応>

【三田】

開会式後のオリエンテーション時に印刷したしおりを配った。しおりの記載内容にミスがあった場合は、班長会議で班長を通して参加者へ連絡した。

<反省点>

【三田】

- ・内容を編集する人とデザインをする人で分かれて担当していたため、デザイン側では内容を把握しておらず内容の変更をするのに時間がかかった。そのためしおりの発送が一週間以上遅れてしまった。
- ・内容のミスが多かった。完成後にサイボウズにあげ確認をしてもらっていたが、それだけでなくプログラムガイドや他の資料を見ながら自分でも確認するべきだった。内容編集者から聞いた内容と事務局から聞いた内容が異なっていた。（この原因はうちださんに聞いたいです）
- ・しおりのデザインをする際にイラストレーターを使って編集していたため、データ形式が一部の人にしか編集できないものだった。
- ・記載内容の変更が多かった。
- ・プログラム班から、載せて欲しい情報を事前に聞くべきだった（プログラムの参加者構成、持ち物、スケジュール等）。

【内田】

- ・班編成の発表が完成版まで出せずに結果としてジャンボリー中の発表となってしまう、備品集めが大変になってしまった。
- ・プログラムの内容が薄いのでプログラムチームともっと連携してしおりを作成していくべきだった。
- ・献立等が変わったことによる困惑が参加者から大きかったのもっと早めに確定させておくべきだった。

<今後への提言>

【三田】

- ・データ形式を最初にきちんと決めること（最初はPDFと言われたが、後々みんなで共有して扱えるグーグルドキュメントやスライドの方がいいだろう）。
- ・参加者へしおりを送付する一週間前には記載内容を確定させること。
- ・しおりの言葉遣いは丁寧すぎないように。

【内田】

- ・（特にジャンボリーなどの大型イベントと被る年は）班編成・プログラムチーム分けをしたしおりを1ヶ月以上前に提出するべきである。
- ・記載内容の大幅な変更がないように提出より前に情報を確定させるべきである。
- ・Q&Aのようなものをweb上で公開しだれでもアクセスできるようにするべきだと思った。
- ・参加者の半数以上が順次アップデート式のしおりでよいとのことだったので今後もその形がいいと思う。今回は実現できなかったがしおりドライブを公開し、順次見てもらえるようにする&完成版はpdfで全員に送るとするのがよさそう。

本部（加藤）

<当日の対応>

セレモニー、全体プログラム、食事、就寝の時間を除き、常に実行委員の誰かが無線を持った状態で本部で待機しているようにした。参加者からの質問には、無線で担当委員からの指

示を受け取り、本部待機の委員が質問者に伝達した。2日目からは、落とし物ボックスを設置した。

<反省点>

- ・ホワイトボードをレンタルしていたのにあまり活用できなかった

<今後への提言>

- ・どうしても本部に人がいない時に「～～のため不在、新平荘にいます」というパネルを設置、もしくは無線を設置するといった工夫があってもよいだろう
- ・余裕があれば、「今日のひとこと」「昨日あったニュース」などのお遊び的コンテンツをホワイトボードを使って実施してもよいだろう

【配給・食事】

献立（加藤）

<事前の準備>

第3回実行委員会で献立の案を作成した。当初はスタッフ・ゲストにも同じ献立で対応する予定だったが、時間と手間を考え参加者とスタッフ・ゲストの献立を分けた。あくまで献立は例であり、各班で工夫して構わないという旨を伝えた。昼食は、朝食で米を炊く場合はおにぎり、そうでない場合はサンドイッチとした。

<当日の対応>

2日目夜の献立はチンジャオロースと味噌汁であったが、栄養バランスを考え卵を各班に1パック配給した。卵を何に使えばよいのかという質問が複数あったので、自由に使ってくださいと回答した。

<反省点>

- ・メニューを確定させるのはもっと早い時期でもよかった
- ・茨城県はこれといった名産品やご当地メニューに乏しかったので、そこに対して趣向を凝らそうとしなくてよかった（メニュー確定が遅れた一因）

<今後への提言>

- ・献立にこだわるのは各隊キャンプ等でやってもらえらるとして、野営大会なので作りやすさに重きを置いた献立が望ましい
- ・開催地に有名かつキャンプでも作りやすいご当地メニューがあれば、それを採用するのはよいことである
- ・今回特にレシピを配布はしなかったが、今後も必須ではないだろう

食材の発注（玉井）

<事前の準備>

第四回実行委員会で今回の発注先となる、ベイシア高萩店に伺った。第三回実行委員会で作成した献立を元に、店にある食材、量、価格を調べた。また、同時に副店長にも挨拶をして、当日の発注、受け渡しなどについて打ち合わせを行った。その後、店での商品調査を参考にして、もう一度献立の練り直しを行い、発注リストを作成した。発注リストは実行委員側で商品の名称、必要数などを記載し、店側が価格を記載するという方法で作成した。

<当日の対応>

最初は店の窓口へ行き、商品を運んでもらった後、レジを全商品通してから車に商品を運び、請求書を作成してもらおうという流れだったが、効率が悪く、時間がかかってしまっていたので、途中からは高萩スカウトフィールドを出発する前に店に連絡し、事前に商品をレジに通してもらえるようお願いをした。発注時から参加者人数が変更になったため、その分の必

要になった食材については別で買い足しを行った。プログラムで必要になった備品、飲料などについても、商品の受け渡しと同時に買い足した。

<反省点>

- ・当日の受け渡しについての店との打ち合わせが不十分だった。
- ・発注リストの作成が遅れてしまったために、前泊の食材分の発注ができなかった。店との打ち合わせの際に締め切りを明確に決めておく必要があると思う。
- ・最初、請求書やお金の管理が事務局と打ち合わせできていなかった。
- ・商品調査をする際、携帯で写真を撮ってはいけないということで、店側からお叱りを受けた。
- ・食材が余った班が多かったようだった。

<今後への提言>

- ・当日までに店と打ち合わせはきちんと行うべきであり、その際、発注の締め切り、当日の流れなど必要事項は全て打ち合わせできるように準備して行くのが良い。
- ・店側の都合と実行委員側の都合の両方を考慮した上で、いかに効率的に商品の受け渡しができるか事前に話し合い、決めておくべきである。ベイシア高萩店に限っては、その他様々なボーイスカウト活動の際に利用させていただいているため、「いつも通りで」というように言われる場合は、事務局などから普段どのように受け渡し等を行っているのか聞いておくのが望ましい。

配給（玉井）

<事前の準備>

献立、発注リストの作成をし、また配給場所や時間、方法は実行委員会で検討した。配給を円滑に行うことを考え、配給カゴを各班に二つ用意し、食材を入れたカゴを一つ渡し、空になったカゴを同時に回収する方法をとった。

<当日の対応>

店から運んできた食材をなるべく早く数、量などの確認をし、常温保存が可能な商品については即座に班ごとに分けるようにした。その際、数が違うものも多くあったが、初日は店まで返品、交換に行っていたが、途中からは時間もなかったのも、ある程度実行委員側で調整できるものに関しては多少商品の量が予定と異なっても、班の人数を考慮した上で配分した。また、配給カゴの返却が遅れる班が2班程度あったが、実行委員側で回収し、注意を行った。

<反省点>

- ・配給時間よりもかなり早く集まる参加者が多かった。
- ・余った食材などの処理方法を伝えていなかった。

<今後への提言>

- ・余った食材についての持ち帰りなどの指示も参加のしおりなどに記載するか、オリエンテーションで指示しておくともより良いと思う。
- ・配給カゴについては今回の方法でかなり上手くいったので、今後も同じようにやると良いと思う。

スタッフ・ゲストの食事（加藤）

<事前の準備>

8月第2週にスタッフ・ゲスト用の献立を作成した。プログラムがある日の昼はお弁当にし、その他も比較的作るのが楽なメニューにした。事務局が作成してくれたスタッフ・ゲストの出入り表をもとに食数を出した。

<当日の対応>

何名かスタッフ・ゲストの増減があったが、買い出しや余り物の活用で柔軟に対応した。

<反省点>

- ・ 出入り表に無いスタッフ・ゲストもいたので、ほとんどの場面で食数に変更になった
- ・ 一部のスタッフやゲストにとっては量が多すぎた

<今後への提言>

- ・ ゲストの出入りはなるべく早く確定させるのが望ましい
- ・ 確定後に来ることが決まったゲストについては、各自で対応してもらうことも必要かもしれない
- ・ 今回は献立のメニューの材料を少し多めに発注したが、今後は人数分きっちり発注して、急きよ来た人がいる場合は、実行委員の一部がカップ麺等の日持ちする食料で対応するのが楽だろう

【野営管理】

基本日課（内田）

<事前の準備>

全体で行うセレモニーを開閉会式のみにした。また基本的には朝6時、夕方16時30分に配給を行った。毎日国旗掲揚・降納を有志で実施した。

<当日の対応>

<反省点>

- ・ 朝の配給時間には眠そうな参加者もいた。調理時間を考えると少し早すぎる日もあったのかもしれない。
- ・ 参加者の1割強が1日以上全体での朝礼の開催を希望していた。

<今後への提言>

- ・ 今後泊数が伸びるのであれば、少なくとも1日は全体としての朝礼を行った方がメリハリもつくと思われる。
- ・ 朝昼の食事を調理時間の短いものにして朝の配給を遅らせてもいいのかもしれない。

サイト割り（内田）

<事前の準備>

上のサイトはクエスト時のものから変更なし、下は新たにサイトを5つにわけた。全ての班に対し隣の班が違うブロックとなるようにした。

<当日の対応>

班によって大きさがまちまちであったり下のサイトと上のサイトでは環境が違ったりと様々であったが、参加者は楽しんでいただろうと思う。

上のサイトは各サイトごとに分かれているため班としてのカラーが強くなり、下はほぼしきりがないため近くの班との交流も見られた。

<反省点>

- ・ 上のサイトと下のサイトでは環境がわりと違うが、それを事前に参加者に共有できていない部分があった。
- ・ 上のサイトでも班によって大きさは様々なので小さいところには2個分のサイトを与える等でうまく調整ができればよかったのかもしれない。

<今後への提言>

- ・ キャンプサイトの情報はFacebook等で早めに公開するべきである。
- ・ キャンプサイトの使い方については基本的に参加者に任せ、圧倒的に小さい場合等は付近のサイトと交渉等をお願いしたが今後もそれで良いと思う。

備品貸与（内田）

<事前の準備>

備品を貸し出せることは決まっていたが、値段や物の詳細が決まっていなかった。また机のみ前半に無償貸し出しの案内を班長LINEで流した。

備品貸出書等は作成せず、班長LINEで連絡をもらうことにした。

前泊時に高萩の倉庫から必要備品を取り出した。

<当日の対応>

・当日は貸出スペースに委員が常駐し貸したもののチェックを行った。返すときも同様に委員が常駐した。

・備品は無償貸し出しとした。

<反省点>

・前泊時のチェックの時に全てのものの中を確認しなかったため、貸し出した備品が壊れている、足りないものがある等の問題があった。

・備品貸出書を作成しなかったこと、事前に聞いていたものを借りない班があったことからの班が何を借りているのかのチェックが難しかった。

・遠方の班では備品を全部持って来ていたので、無償貸し出しになるのであれば早めに連絡することが必要だった。

<今後への提言>

・事務局と密な連絡を取り、備品の値段や物の詳細は少なくとも班編成と同時に出すべきである。また遠方参加者には最初から無償貸し出しとしてもいいのかもしれない。

・無償貸し出しになるのは今回だけかと思うが、無償貸し出しの場合でも備品貸出書を作るべきである。また当然のことだが貸出備品のチェックはするべきである。

共同スペース（トイレ、シャワー、喫煙所等）の利用（内田）

<事前の準備>

トイレ：新平荘内のものを除き、野営場内全てのトイレを使用可とした。

シャワー：上のシャワーは水しか出なかったため、上下シャワーを日替わりで男女に分けて利用した。

喫煙所：上下どちらのサイトの参加者でも利用しやすい新平荘付近に設置した。救護所への出入り口が近かったため、茨城DAY時は禁煙とした。

六角堂・広場・アリーナ：プログラム以外での使用にも許可制等にはしなかった。

<当日の対応>

・トイレ・シャワーの備品（トイレットペーパー、シャンプー等）に関しては事前に十分な数量を用意したので最終日までほぼ切れることはなかった。切れた場合は参加者から報告してもらい随時補充した。

・シャワーの時間は6:00-23:00に定めていたが、時間以外の使用はほぼ見られなく日にち毎の男女変更もスムーズに行えた。

・喫煙所の設置、撤去に関しては参加者が手伝ってくれたこともありほぼスムーズに行えた。

・（特に広場で）夜の時間も交流が見られた。使用者も汚くすることはなかったため問題なかった。

<反省点>

・シャワー内のマットを使用後は上にあげて乾かす等の手入れについて説明できたほうがよかった。また忘れ物等の点検は行かなかったが特になかったように感じられる。

・喫煙所に使用時間を定めていなかったため深夜までいるスカウトがいるように感じられた。ただその参加者が翌日体調を崩す等のことはなかったためよかった。

<今後への提言>

- ・今後泊数が伸びることを考えると、共同スペースの清掃はもっと頻繁に実施すべきであろう。
- ・喫煙所の使用時間を定めてもいいと思うが、そのあたりは参加者たちに時間の決め方まで任せたい。

【生活における安全管理・危機対策】

安全に関する基本方針（加藤）

<事前の準備>

RCJクエスト2016in高萩や日本ジャンボレット高萩2017のものを参考に、安全・危機管理ハンドブックを内田委員中心に作成した。プログラムごとに想定されるリスクが異なるため、プログラム中の安全管理は各プログラムの担当委員に任せていた。

<反省点>

- ・会場入り直前もしくは直後に、主なリスクとそれへの対応を委員全員でシミュレーションすべきだった
- ・安全・危機管理ハンドブックを参加者にまで周知しきれなかった

<今後への提言>

- ・安全管理のみを担当する委員を設け、生活とプログラム両方における安全管理について統括させるべきである
- ・安全・危機管理ハンドブックは参加者全員に配布し、オリエンテーション等で重要事項を改めて確認するのが望ましい

救護室の設置（加藤）

<当日の対応>

新平荘の最も奥（スカウトホール側）の部屋を救護室として確保した。主に熱中症の対応で利用した。幸運にも参加者に看護師がいたので、適切な対応をすることができた。

<反省点>

- ・担当者を事前に決めていなかったのも、手の空いている人でローテーションするというイレギュラーな対応になってしまった
- ・看護師がもしいなかったら、適切な処置が遅れてしまっていた

<今後への提言>

- ・看護師や医師に支援をお願いすべきである。専門性が求められるため、支援してくださる方には、参加費、交通費（場合によっては謝礼）を予算から捻出する等の工夫が必要である

熱中症対策（加藤）

<当日の対応>

総務チームで麦茶を作ってジャグに入れ、上下キャンプサイトに19リットルを1つずつ、本部に38リットルを1つ設置した。日中に麦茶が無くならないよう、1/5のお湯で煮出した5倍の麦茶と氷を新平荘のキッチンで作りストックしていた。茨城DAYで会場内の人が増え、暑さも相まって消費量が増えたがなんとか対応できた。

<反省点>

- ・食事以外での塩分補給の手段を確保していなかった
- ・スタッフへの水分補給等の声掛けを怠ってしまった
- ・セレモニーの時こそジャグを用意し、発生してしまったときの対応について想定しておくべきだった

<今後への提言>

- ・麦茶に加えスポーツドリンクも用意する
- ・救護室には経口補水液も用意する
- ・各種セレモニーは暑くなる時間帯を避けて実施する
- ・班装備としてクーラーボックスを持参させ、氷とペットボトル飲料を配布することを考えてもよい。

【広報】

事前の広報（加藤）

より多くのスカウト関係者に本大会の存在を知ってもらい、参加者を増やすことを目的として、大会のFacebookページを開設した。申し込み開始の告知やプログラムの紹介など、2月から7月にかけて計30個の記事を投稿した。

<反省点>

- ・当初の6月締め切りに合わせれば6月前半に投稿を充実させるべきところを、6月前半の投稿は1回のみであった
- ・7月のプログラム紹介は、内容が淡泊すぎたのか「いいね！」数が伸び悩んだ

<今後への提言>

- ・日本連盟やRCJのFacebookページでシェアしてもらえるので、事前に大会について周知させる手段としてはFacebookは有効である
- ・Facebookには書いた記事の投稿時間を設定できる機能がある。記事を書きためておき、ローバー年代がよくスマホを利用する夕方以降の時間帯に狙って投稿するのが望ましい

全国大会スカウティングエキスポ（加藤）

<事前の準備>

大会ロゴのステッカー、大会概要のチラシ、プログラム概要のポスター、写真撮影用のグッズを用意した。

<当日の対応>

グッズと共に撮影した写真をFacebook/Twitter/Instagramのいずれかに「#RCJRQ」のハッシュタグをつけて投稿するよう促し、投稿してくれた人には大会ロゴのステッカーをあげるという企画を実施した。参加対象となるローバー・同年代指導者に加え、全国大会に参加する各県連盟の主要な指導者に対しても大会の存在をアピールすることができた。

<反省点>

- ・大会の内容や魅力についてきちんと説明する機会をなかなか持てなかった。スカウティングエキスポでは参加者が1つのブースにとどまることは少ないので、工夫が必要である

<今後への提言>

- ・実際に参加する層はもちろん、ローバー年代が支援や理解を求めたい層にもアピールできるので、今後もスカウティングエキスポへの出展はしていくべきである

期間中の広報（三田）

<当日の対応>

大会の前々泊から大会終了まで、Facebookページで一日平均2つの記事を投稿した。時間がある場合は事務局カメラの写真を、ない場合や即時にあげる場合はスマホでの写真を付けて投稿した。

<反省点>

- ・大会終了後の投稿のことも考え、事務局カメラのデータをこちらでも保存しておくべきだった(一部はグループLINEのアルバムへ保存済み)。
- ・投稿記事にある程度統一感を持たせるべきだった(#RCJや#RCJRQのつけ忘れ、見出しの書き方等)。
- ・自身のパソコンがSDカードを読み込めなかったため、他の人のパソコンや変換器を使って写真を読み込んでいた。
- ・場外プログラムの写真は撮影できず、あとからプログラム担当に参加者へ写真提供のお願いをしてもらった。

<今後への提言>

- ・SDカードを読み込むための変換器を用意する
- ・投稿記事の統一感をもたせるためのルールを設ける
- ・場外プログラムの写真撮影は参加者へ事前に依頼する

【制作物】

記念品 (三田)

<事前の準備>

記念品がトートバッグと決まり、そのデザイン、また発注先の検討を行った。三社分の見積もりを事務局へ提出し、その後発注した。大会の三日前に事務局へ届くように手配した。

<当日の対応>

記念品は事務局の方から会場へ輸送され、前泊準備の際にIDや参加章を入れ、参加者に受付の際に配布した。

<反省点>

- ・事務局に三社分の見積もり書を出さなくてはいけないことを後から知ったため、対応が遅くなった。
- ・大会直前の印刷会社はお盆休みのところが多く、8月頭の時点で納期に間に合うかギリギリになってしまっていた。
- ・個数がギリギリになってしまっていたため、もう少し余分に発注してもよかったかもしれない。

<今後への提言>

- ・大会の一ヶ月以上前には発注しておくこと
- ・事務局とどのような条件が必要なのか早い段階で聞くこと(今回の場合は後払いができるか、一個500円以内に収まるか、三社分の見積書が必要である、等)
- ・個数は多めに発注すること(参加者プラス15ではギリギリだった、プラス30~50くらい?)。
- ・大会期間中参加者が使ってくれておりトートバッグで良かったと思う。

その他制作物←何を制作したか、その用途、実際に使用してみたの必要度 (三田)

<事前の準備>

のぼり、バナー、大会旗

7月にデザインをし、発注は事務局の方で行われた。受取も事務局側。

<当日の対応>

大会旗は開会式や閉会式、また毎日の国旗儀礼の際に国旗と日連旗とともに掲揚降納された。のぼりは会場各地に配置、バナーは会場入り口とアリーナに配置された。ローバーナイトのときのみバナーはスカウトホールへ移動された。バナーは記念撮影などで活用された。

<反省点>

のぼりやバナーを7月頭の下見の際にお願いされ、その後は納期や発注先等なにも把握していない状態だった。事務局から依頼されるまで手をつけておらず、また事務局からの依頼も急なものだった。

<今後への提言>

- ・制作物は納期、発注先、データ形式などきちんと最初の段階で把握しておくべき。
- ・バナーは記念撮影や大会としての目印となるので今後もあるといいと思う。
- ・のぼりは会場の雰囲気作りとしてはとてもよかったが、予算によってはなくてもいいかもしれない。予算の余裕があれば。
- ・今回会場に掲揚柱が3本あったため大会旗を作成したが、ない場合は必要ないと思われる。また、大会旗だとその時のみの使用になってしまうので、大会旗よりもRCJの旗を作ってもいいかもしれないと思った。

【実行委員会・事務局の情報共有】

<事前の準備>

主にサイボウズLiveとLINEを用いて委員間で情報を共有した。ファイルは基本的にGoogle Driveとその周辺サービスを用い、必要に応じて委員が共同で編集できるようにしていた。事務局とはサイボウズ、メール、電話で対応してもらっていた。

<当日の対応>

実行委員会、アドバイザー、プログラム委員は無線を携帯し、会場内で即時の連絡が取れるようにしていた。

班長会議後に運営委員会での会議を実施し、当該日程の反省事項と翌日の連絡事項を共有した。

<反省点>

- ・ドライブ内のファイルが雑多になり、やや混乱した。
- ・途中からメールも使用することになり、グループウェアを利用する意味合いが薄まった
- ・LINEのみで話が進み、アドバイザーや事務局に状況が伝わっていないことがあった

<今後への提言>

- ・初回実行委員会で情報共有についてのルールを明確に定め、それを遵守すると混乱が少ないだろう。
- ・一部のメンバーでやり取りして決まったことは、必ず全体に共有すべきである
- ・ファイル名の冒頭に日付を書くなど、最新のファイルがどれなのか分かりやすい工夫が必要である
- ・大会当日用に、スタッフが必要とする書類はまとめて印刷、できれば期間中の頻繁な使用に耐えうる製本をするのがよい

【参加者申込状況】

7/5に7/27まで延長の旨をアナウンス

6/29段階：74名

7/13段階：83名

7/31段階：92名

最終：95名

※実行委員10名を差し引いた数

<反省点>

- ・参加者募集を早く開始し、募集期間中の宣伝をより徹底できていたら、締め切りを延長せずとも95名の参加者なら集められたかもしれない
- ・今回は参加申し込みにあたって、隊長・団委員長・地区コミ・県コミの承認が必要であった。各県連盟や地区のルールはともかく、実行委員会として4つも承認の段階を設けるのは、申し込みにあたっての障壁を増やしてしまうことにつながる。

<今後への提言>

- ・RCJのネットワークやSNSでの広報だけでなく、実行委員による個人的なアプローチも積極的にしていくのがよい。
- ・ローバーの野営大会に関して、運営側としてはどこから承認をもらっていれば参加していいかの基準を設け、申込の簡素化を図っていくべきである。



茨城DAYでの一コマ

【参加者】

No.	県連盟	所属団	氏名	No.	県連盟	所属団	氏名
1	北海道連盟	名寄第1団	戸田 弥祥	31	神奈川県連盟	藤沢第12団	新発田 遼
2	青森県連盟	青森第2団	横山 正市	32	神奈川県連盟	相模原第7団	上田 和奏
3	宮城県連盟	仙台第1団	和田 悠佑	33	東京連盟	世田谷第10団	枝迫 七海
4	宮城県連盟	泉第2団	加藤 裕樹	34	東京連盟	福生第1団	小林 優祐
5	山形県連盟	寒河江第1団	大沼 環	35	東京連盟	台東第4団	小川 太希
6	福島連盟	会津若松第1団	三浦 大幸	36	東京連盟	大田第1団	田中 莉緒
7	福島連盟	会津若松第1団	石井 萌子	37	東京連盟	千代田第7団	稲田 未来
8	茨城県連盟	水戸第2団	平原 伊純	38	東京連盟	千代田第7団	掃部関ももは
9	埼玉県連盟	熊谷第2団	泉田 駿	39	東京連盟	千代田第7団	渡部 大地
10	埼玉県連盟	草加第3団	草間 明浩	40	東京連盟	千代田第7団	潮 希典
11	千葉県連盟	柏第1団	豊島 春子	41	東京連盟	稲城第1団	榊 拓己
12	千葉県連盟	船橋5団	佐藤 大典	42	東京連盟	小平第1団	寺崎 風太
13	千葉県連盟	柏第1団	青木 美徳	43	東京連盟	昭島第1団	木村 直登
14	千葉県連盟	柏第1団	尾崎 類	44	東京連盟	小平第1団	寺崎 詠介
15	千葉県連盟	印西白井第1団	中山 堯登	45	東京連盟	新宿第2団	後藤 朱里
16	千葉県連盟	印西白井第1団	皆越 慧	46	東京連盟	杉並第9団	望月 海
17	千葉県連盟	君津第2団	佐々木裕太	47	東京連盟	新宿第2団	松井佑里香
18	千葉県連盟	印西白井第1団	藤山 遼太	48	東京連盟	中野第11団	東條 雅臣
19	千葉県連盟	柏第4団	前川 千晶	49	東京連盟	江戸川第2団	鳥海 航輝
20	千葉県連盟	佐倉第3団	関元 紅音	50	東京連盟	葛飾第9団	飯塚 正樹
21	千葉県連盟	船橋第14団	山口 輝	51	東京連盟	千代田第7団	後藤 直幸
22	千葉県連盟	船橋第3団	稲村 文行	52	東京連盟	台東第4団	堀 秀慈
23	神奈川県連盟	横浜第87団	渡邊 亮太	53	富山県連盟	高岡第9団	山本 悠平
24	神奈川県連盟	川崎第38団	天谷知華子	54	静岡県連盟	富士第9団	宮地 飛鳥
25	神奈川県連盟	厚木第3団	福井 玲音	55	静岡県連盟	沼津第19団	西山あかり
26	神奈川県連盟	伊勢原2団	新井 結喜	56	静岡県連盟	浜松第12団	袴田 真由
27	神奈川県連盟	海老名第2団	山内 祐輝	57	愛知連盟	江南第3団	伊藤 美沙
28	神奈川県連盟	藤沢第6団	宮本 寛生	58	愛知連盟	犬山第7団	島村 真人
29	神奈川県連盟	藤沢第21団	平子 侑果	59	愛知連盟	名古屋第66団	磯原 良介
30	神奈川県連盟	藤沢第21団	平子 巧	60	愛知連盟	名古屋第87団	川畑 京蔵

No.	県連盟	所属団	氏名	No.	県連盟	所属団	氏名
61	愛知連盟	名古屋第91団	原 瑛	79	和歌山連盟	橋本第2団	武藤 和奏
62	愛知連盟	名古屋第12団	佐野 佑樹	80	大阪連盟	堺第15団	戸谷 明寛
63	愛知連盟	名古屋第87団	加藤 大季	81	大阪連盟	大阪第21団	小池明日香
64	愛知連盟	名古屋第30団	間瀬 知美	82	大阪連盟	堺第25団	宮本 佳奈
65	愛知連盟	春日井第5団	中神 大輔	83	大阪連盟	枚方第9団	山東 佑紀
66	愛知連盟	江南第3団	倉地 弘隆	84	大阪連盟	吹田第19団	金子 和樹
67	愛知連盟	長久手第1団	梶谷 光平	85	大阪連盟	茨木第3団	佐坂 美月
68	京都連盟	京都第43団	井上 正喜	86	大阪連盟	高槻第7団	本田 裕都
69	兵庫連盟	西宮第1団	石川 智彬	87	大阪連盟	大阪第81団	東 悠希
70	兵庫連盟	西宮第25団	赤松 佑香	88	大阪連盟	堺第25団	永野 朱音
71	兵庫連盟	神戸第31団	中西 美裕	89	鳥取連盟	鳥取第11団	加藤 遼
72	兵庫連盟	神戸第2団	谷口 瑠理	90	広島県連盟	安佐第4団	餘多分祐人
73	兵庫連盟	神戸第58団	松永慶太郎	91	広島県連盟	佐伯第6団	斉藤 由佳
74	兵庫連盟	神戸第58団	松永祥次郎	92	広島県連盟	広島第13団	岡本優愛
75	兵庫連盟	神戸第55団	鷹野 瞳	93	愛媛県連盟	四国中央第2団	荻田 裕介
76	兵庫連盟	神戸第33団	乙間 海徳	94	愛媛県連盟	砥部第1団	武智可那子
77	奈良県連盟	生駒第10団	森 優介	95	福岡県連盟	福岡第19団	柴田 雄介
78	和歌山連盟	橋本第2団	武藤 恵祐				

【来訪者】

日本連盟理事長	奥 島 孝 康
日本連盟副理事長	水 野 正 人
日本連盟常務理事	山 内 直 元
日本連盟理事（日本連盟コミッショナー）	福 嶋 正 己
日本連盟理事（プログラム委員長）	榊 原 孝 治
日本連盟理事（指導者養成委員長）	大久保 秀 人
日本連盟理事（S f H安全委員長）	増 田 秀 夫
日本連盟副評議員長	森 谷 治 男
日本連盟プログラム副委員長	中 島 清 行
茨城県連盟県連盟副コミッショナー	杉 浦 一 弘

ご支援ありがとうございました。

参加人数 24 県連盟 105 人（男 65 人、女 40 人）（実行委員含む）

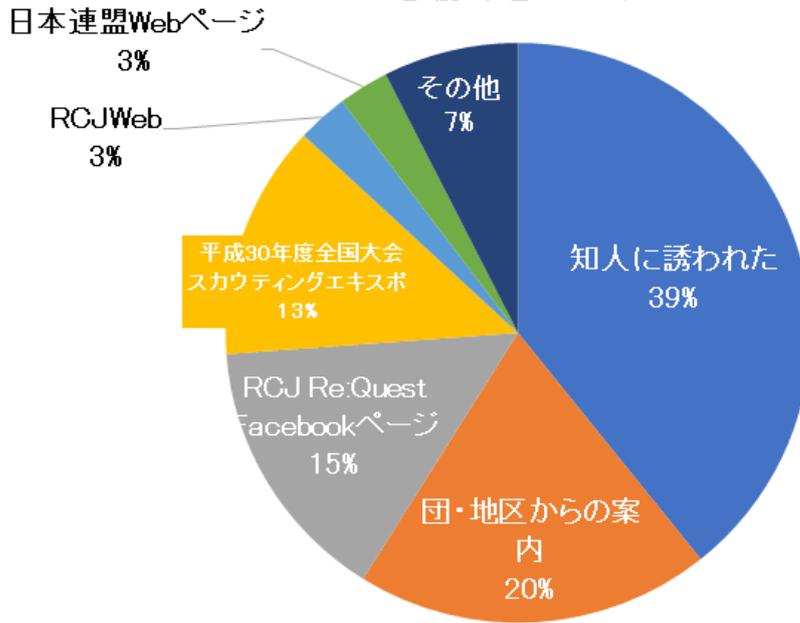
ブロック	県連盟	参加人数	男	女
北海道 ・ 東北	北海道	1		1
	青森県	1	1	
	岩手	1	1	
	宮城県	2	2	
	秋田県			
	山形県	2	1	1
	福島	2	1	1
関東	茨城県	1	1	
	栃木県			
	群馬県			
	埼玉県	2	2	
	千葉県	13	8	5
	神奈川	10	6	4
	山梨			
	東京	22	16	6
中部	新潟			
	富山県	1	1	
	石川県			
	福井			
	長野県			
	岐阜県			
	静岡県	4	1	3
	愛知	13	10	3
	三重			

ブロック	県連盟	参加人数	男	女
近畿	滋賀			
	京都	1	1	
	兵庫	8	3	5
	奈良	1	1	
	和歌山	2	1	1
	大阪	10	3	7
	鳥取	1	1	
中国 ・ 四国	島根			
	岡山			
	広島県	3	1	2
	山口県			
	徳島			
	香川			
	愛媛県	2	1	1
	高知県			
九州 ・ 沖縄	福岡県	1	1	
	佐賀県			
	長崎県	1	1	
	熊本県			
	大分県			
	宮崎			
	鹿児島県			
	沖縄県			
	合計		105	65



【事後アンケートから】

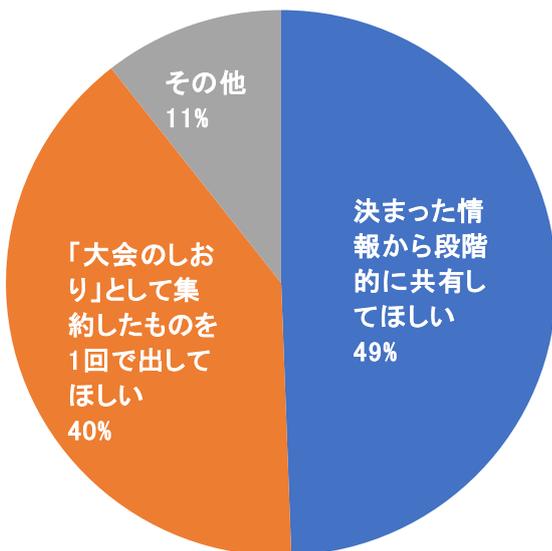
参加のきっかけ



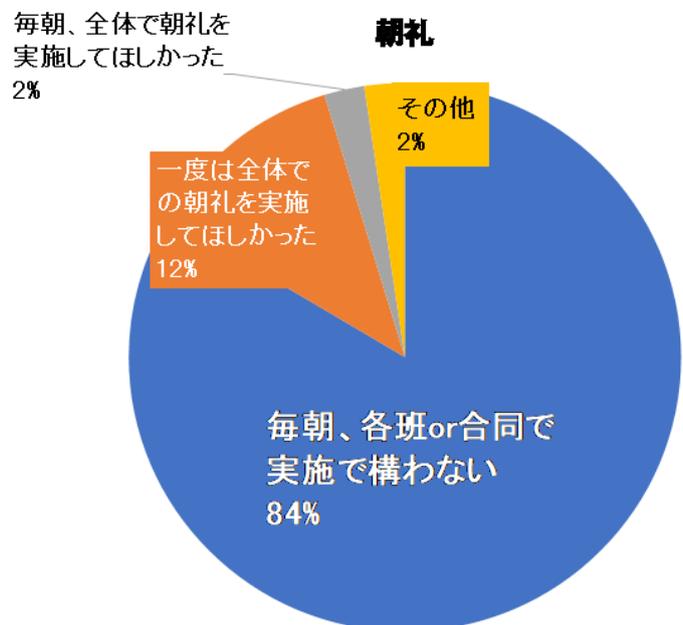
その他

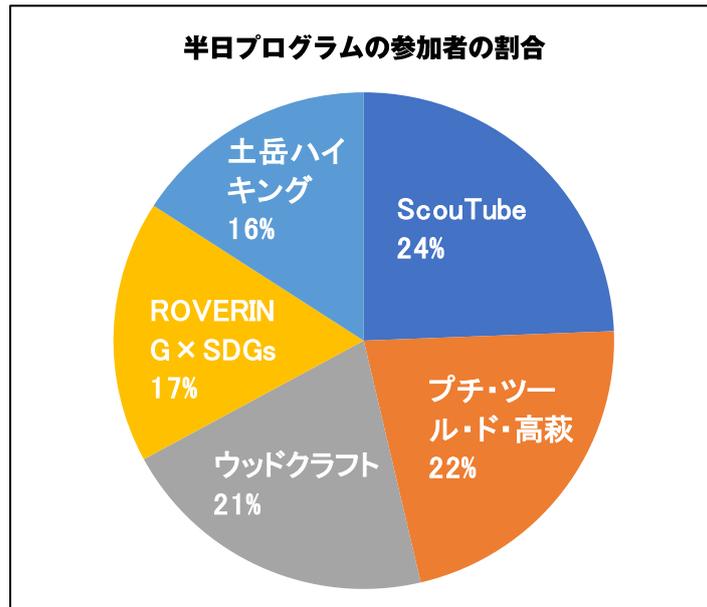
- ・参加は当然です。
- ・強制的だった(´_`)
- ・県代表からの誘い
- ・大学RS部のお知らせ
- ・責任感から など

事前の情報共有

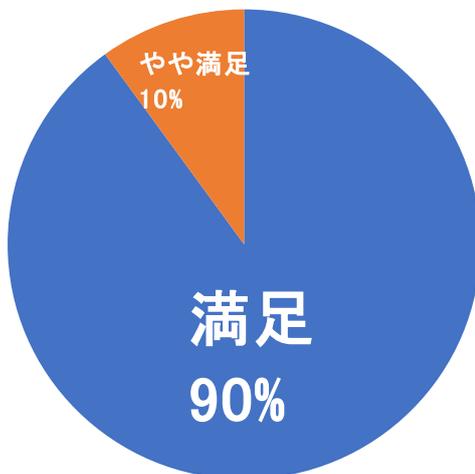


朝礼



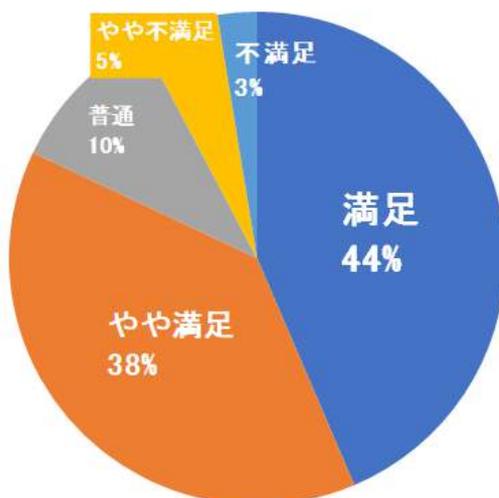


【自主】 ScouTubeの満足度



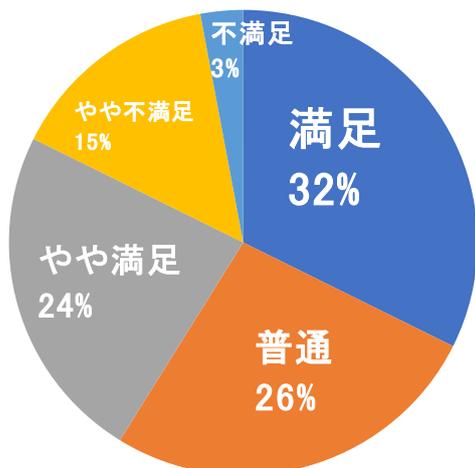
- ・ 皆で和気あいあいと楽しくプログラムが進んでいたこともあり、参加して良かった。
- ・ 機会があるなら、ぜひまた参加してみたい。
- ・ あのScoutubeに微力ながら携わることができ光栄です。
- ・ 完成した動画見ましたが、素晴らしい出来です。そしてあの動画そのものが今回のイベントのお土産となる、とてもいい企画でした。

プチ・ツール・ド・高萩の満足度



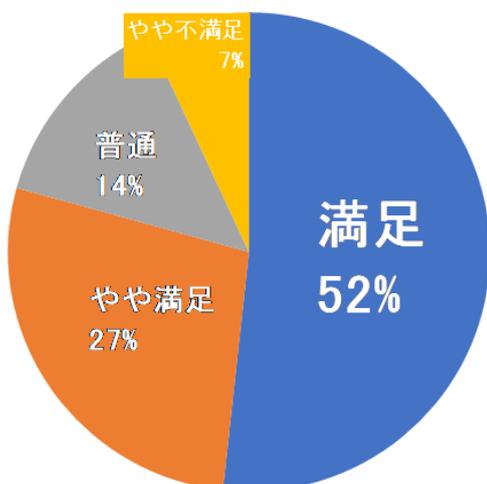
- ・ 班のメンバーと励まし合いながら全員でゴールできたので嬉しかったです。
- ・ 楽しかったが、帰りの坂を登るのがキツく、プチ感が感じられなかった...
- ・ 帰り道はずっと苦しみに苛まれましたが、充実感のあるプログラムでした。支援体制も◎だったと思います。
- ・ 登りがとても大変だったが、登りきった時の達成感がたまらなかった！
- ・ ただ、時間通りに終わる人が少なかったのもうすこし距離を調整するべきかと思った。

ウッドクラフトの満足度



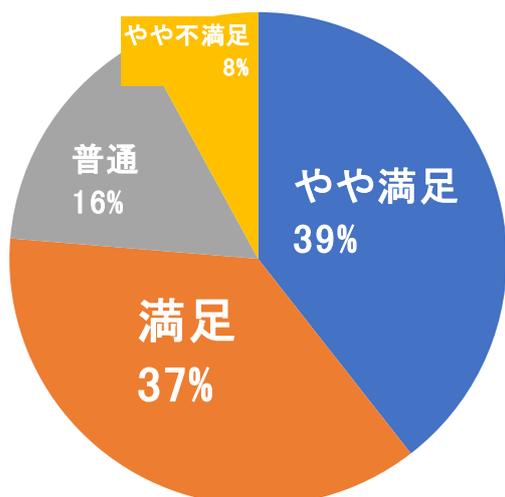
- ・ ベンチを作ったのですが、その後結局バラさなくてはいけなかったの
でそこは何か配慮が欲しかったです。
- ・ ミノややすり、小刀があるとクラフトの幅が広がったと思いました。
- ・ 担当の方が、作業手袋をつけているか、
工具の使い方は合っているか、チーム間の距離があいているか
といった参加者の様子を見ておらず、安全管理が心配でした。
- ・ 用意された工具の種類が少なく、限られたものしか作れなかったたり、
木が濡れてしまっている、大きすぎる、などと使える材料も限られていたりしました。

ROVERING×SDGsの満足度



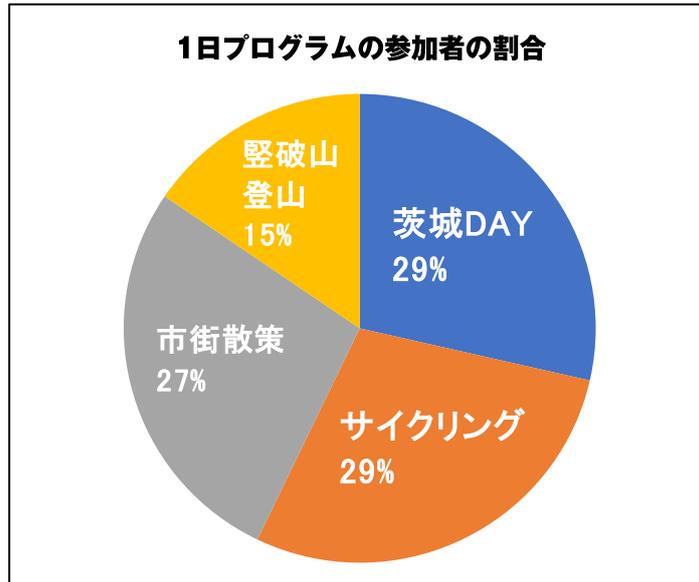
- ・ SDGs は項目が多い分内容が多岐に渡り項目によっては個々人の向き、
不向きが発生するように思う。
- ・ 「ジェンダーの平等」に関しては興味深い意見が他のグループから出されこれを聴くことが出来たのは有意義だった。
- ・ プログラムの流れを「会話→文章化」としたのは適切であったと考える。
- ・ 進行の方がSDGsを熟考しており、各班を回る際に様々な助言や小話を
くださりました。ローバリングとSDGsへの考えを深める意味で大変有意義な時間でした。

土岳ハイキングの満足度

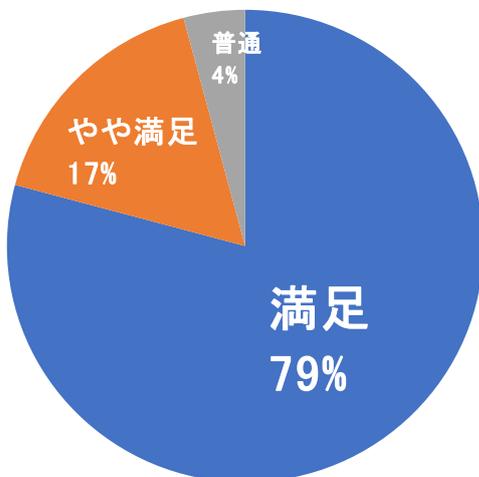


- ・ SDGs は項目が多い分内容が多岐に渡り項目によっては個々人の向き、
不向きが発生するように思う。
- ・ 「ジェンダーの平等」に関しては興味深い意見が他のグループから出されこれを聴くことが出来たのは有意義だった。
- ・ プログラムの流れを「会話→文章化」としたのは適切であったと考える。
- ・ 進行の方がSDGsを熟考しており、各班を回る際に様々な助言や小話を
くださりました。ローバリングとSDGsへの考えを深める意味で大変有意義な時間でした。

1日プログラムの参加者の割合

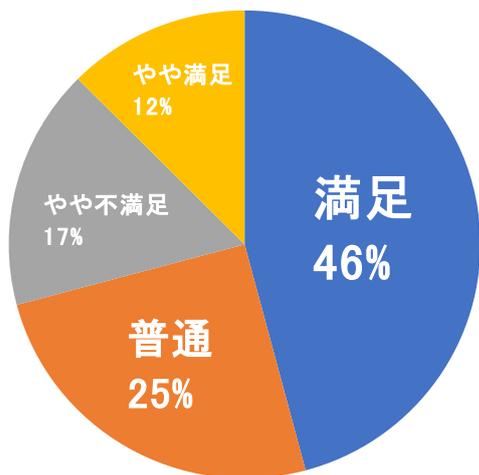


茨城DAYの満足度



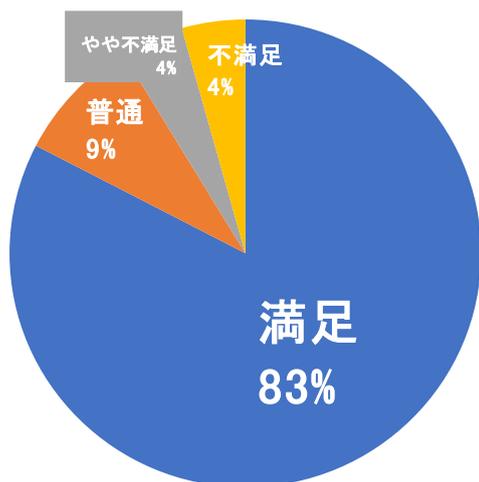
- ・ 1年生くらいの子は無邪気だが、意外に子供のほうが静かというか、恥ずかしがって積極的になれないことがあり、そういう子の対処に苦労した。
- ・ ボーイスカウトのアピールもできる上にスカウトが人に教えるという技能が養われると思うので、凄くいい活動だったと思う。
- ・ 小学生とその保護者にボーイスカウトの活動をすこしでも理解してもらえる機会だと思いました。
- ・ 担当していたスカウトやリーダーから学べることが多く、教え方や企画内容は自団に持ち帰りたいと思います。

サイクリングの満足度



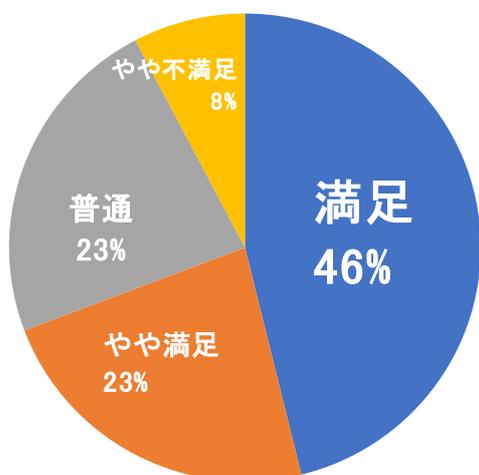
- ・ あれだけの広範囲でプログラムを行うからには実行委員がもっと配置されて然るべきだったのでは。
- ・ 各チームに地形図が配布されたがスカウトフィールドが記載されておらず殆ど役に立たなかった。
- ・ 市街地の観光案内が無かったので特に見るものが無かった。
- ・ 自転車の整備がほとんど行き届いてない状態であったのが気になりました。
- ・ 新しい仲間とのサイクリング、山を下り街に出て海岸へ。海拔ゼロから登り直すのは修行のようでしたが、部活仲間のような友達ができました。

市街散策の満足度



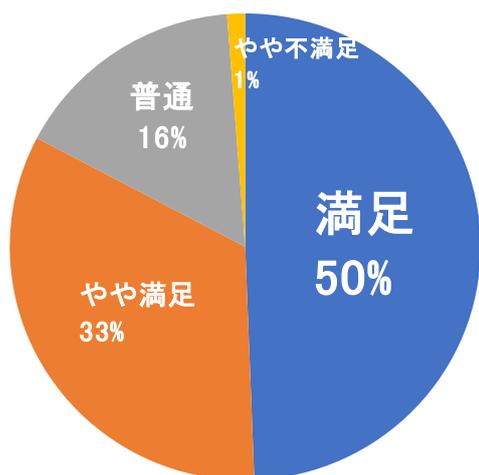
- ・ 自由過ぎたわ(^_^;))
- ・ 野営中に一日フリーに動ける斬新さがよかったです。また、ひよっとすると生涯来ることのなかったであろうエリアを新しい仲間と歩き、色々な魅力に気づくことができ、大変よかったです。
- ・ 1日中、日立市の温泉施設にいました。楽しかったけれど、奉仕活動である高萩DAYにすれば良かった。
- ・ 結果として、みな電車に乗って出かけてしまっていて、聞く限り、私の班を含め、高萩市内にいた人はいなかったようです。
- ・ 安全管理が心配でした。

堅破山登山の満足度



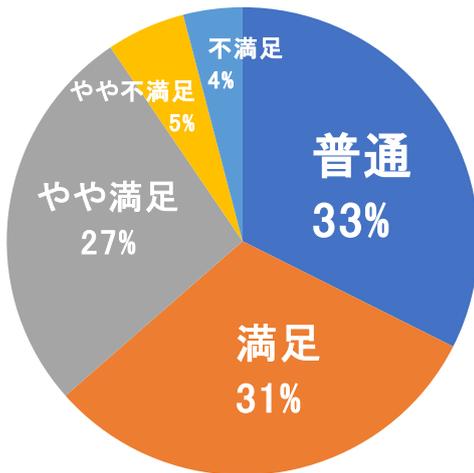
- ・ もう少し高い山に登りたかった。
- ・ ゆっくり回れたのでリラックスもできて楽しかったです
- ・ 行くまでの方が長かったので山が思ってたより低くてしょぼかった
- ・ 少々物足りないと感じました。また、行動時間が山のサイズの割に長く取っており、時間が余ってしまった点が勿体無いと感じました。
- ・ 折角シルバコンパスを持ってきていたのでより詳細な地形図でもよかったかと思います。
- ・ 不思議な石は見物であったが、登山としてはやや不満の残る山であった。

ウェルカムナイトの満足度



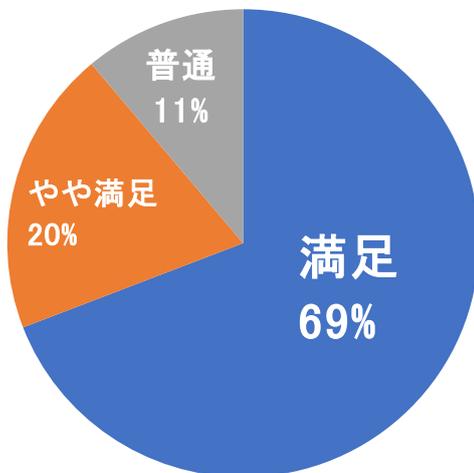
- ・ 内容は大変よかったです。一方、グループによっては沈黙のひととき…みたくなっており、やや残念ではありました。
- ・ 盛り上げ上手で、時間があっという間に過ぎた。
- ・ 初めましての人達でも、表現だけでプログラムの仲間を見つけたり、いろんな方法で自己紹介をする事できた。
- ・ 事前に行動班のメンバーを知っておくのはとても良いことだと思いました！
- ・ テンポがいい。次々面白い仕掛けがあり、大変関心しました。

ローバーカフェの満足度



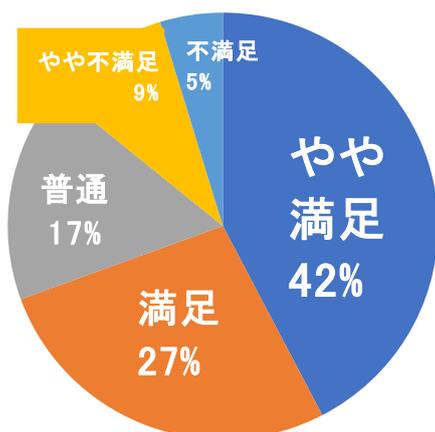
- ・ 最初に通されたメンバーで自己紹介が終わると急に人数が半分くらいになって、初めてこう言う事業に参加していた人が悲しそうな顔をしていました。
- ・ 仲間内での交流を深めるという目的であれば、トーチ利用の場所を用意するので全日程の指定時間内であれば自由に利用しても良いという形式の方が良かったと思います。
- ・ 久しぶりに会った人と話せる空間は最高でしたが、今回が初めての全国活動というスカウトには入る輪がなく、困っている状況を見かけたので運営のサポートがあっても良かったのではないかと思います。

ローバーナイトの満足度



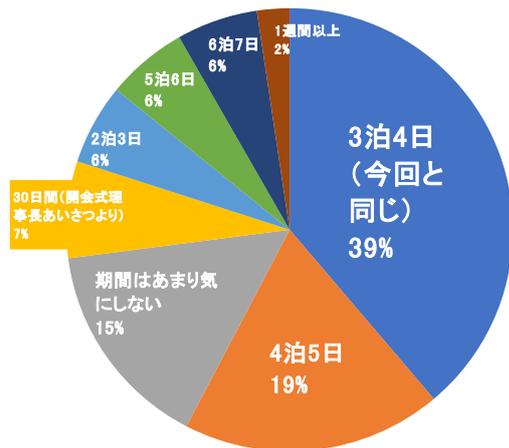
- ・ 雨のためアリーナで実施出来なかったのは残念だった。
- ・ もっと全員が一体となって盛り上げられる歌が有れば良いのではないかな。
- ・ どれだけ叫んでもいい環境は貴重でした。楽しかったです
- ・ 一部内輪感が強かったのはRCJのイベントに初めて参加した人にとってあまりよくなったと思う
- ・ 音楽も良く、運営でないスカウトも個性を發揮できていたのは素晴らしいと思いました。
- ・ 会場に着いた瞬間から場を盛り上げていた司会の人がかっこよかったです。
- ・ スタンツの順番もよく、途中から円になったのは前後の温度差がなくなるので、良かったと思います。

高萩スカウトフィールドの満足度



- ・ 実行委員会の責任では無いが、高額な施設費用を徴収しておきながらもシャワーのお湯が出ないとはなんたることか。他の面から鑑みても、残念ながら会場の対費用パフォーマンスが低かったと評価せざるを得ない。
 - ・ 水捌けが非常に悪いところがあった。
 - ・ 携帯電話の電波が通じないのは非常に不便。
 - ・ Wi-Fiを設置するか無線局を設置してほしい。
 - ・ 閉会式中に暑さで倒れた人のことを考えると日除けを作るべきだと思う。
- ・ 事前にテントサイトの環境情報を提供して欲しかったです。
 - ・ サイトが上の山か下の砂地かで大分環境が違うから、それもしおりに書いてあると良かった。
 - ・ 上と下でテントサイトの様子が全く違うことに驚きました。事前に様子が分かる写真や情報をいただければ、もっといろいろな対策できた班もあったと思います。
 - ・ あまりにも下側のテントサイトの熱中症リスクが高過ぎると感じました。夏に今後もこういった野営大会を開催するというのであれば、設置するジャグの数を増やす、生活班の配給に対策飲料の素を増やすなどの対策をとるべきだと思います。
 - ・ 事前に運営から情報が提供されているのであれば、考え得るリスクに対しての対策を取らなかったことは参加者自身の責任ですが、そういった情報の提供を怠ったのであるならば運営側が責任を持って何かしらの対策を取るべきだと私は考えます。
 - ・ アクセスも悪く、使用料も高い会場は使わないで極力多くのスカウトが参加しやすい場所でやってほしい。また関東だけではなく他の地域の場所も検討すべきだと思う
 - ・ 今回の参加費が3万円と割高だったのは会場の利用料のせいだと大きく。使わせてもらうのが当たり前だと絶対には思っていないが、何とかローバーから日本のスカウティングを盛り上げようとしているのだから（実行委員会に言うことではないが）配慮して欲しい。参加者の多くは自分で参加費を払っているのだし。
 - ・ 今回の大会参加費が高額だった理由が高萩スカウトフィールドの使用料だった、と聞きました。高萩DAYでRSがたくさん貢献したこと、市街散策では広告塔として制服を着用し散策したことなどを勘案するに、相応の日本連盟への貢献があったものと思います。なぜ減免等の措置がなされなかったか疑問に思います。（とはいえ、参加費には納得の上での参加ですが。）参加費が高いために参加を諦めたスカウトが身近に数多くいました。せっかくの機会を金銭面で逸したというのは大変もったいないことです。
 - ・ 高萩スカウトフィールドが辺鄙な土地にあるのは大声で叫ぶためなので良かったと思います。広過ぎることもなく、ちょうど良かったと思います。今回はちょうど良かったですが、200人規模だと少し小さいかもしれないです。
 - ・ 高萩スカウトフィールドはとても良い所でしたが全国のスカウトが集まるには地理的に偏った場所にあります。関東のスカウトには良いと思いますが関西から西のスカウトには厳しく今回場所が問題で参加しなかったスカウトもいると耳にしました。そこで地理的に中心の場所で一回やってみるのもありだと思います。（その他意見多数）
 - ・ 電波が通じないのは、リアルタイムでRS野営大会の面白さを伝えられないという点で少し残念であった。

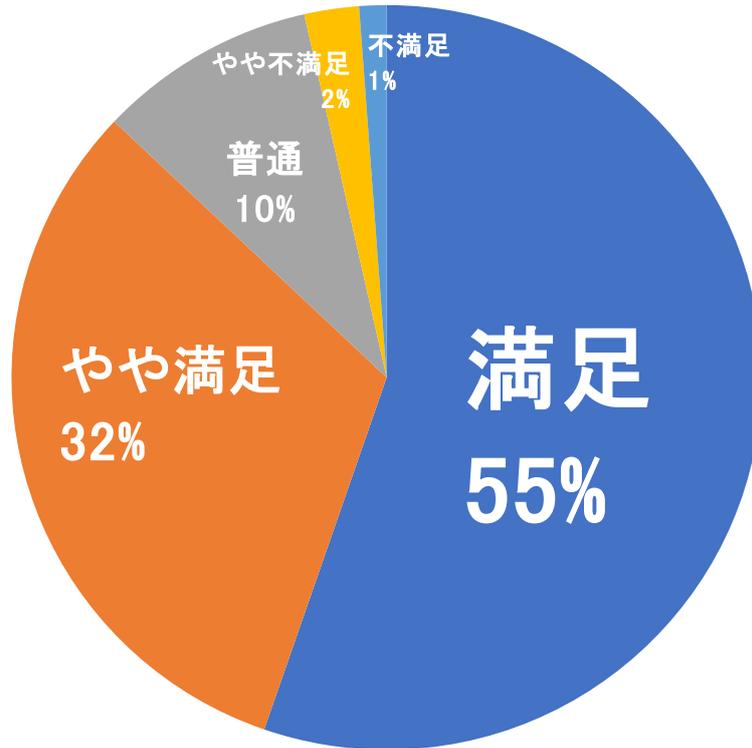
今後の野営大会は何泊が良いか？



- ・ 理事長の挨拶通りやはり30日は最低野営した方がいよね。理事長の支援金ありきで♡
- ・ 短いと長い両方あったら楽しいと思う。
- ・ プログラムに参加しなくても良い休憩できる暇な日があると助かる。
- ・ 初日は設営、最終日は撤営に時間を割くことを考えるとプログラムをするのに3日は欲しい。
- ・ 何泊にしるNSJと同じ年の同じ時期に野営大金を開催するのは絶対にやめた方が良いと思う。

- ・ いつもイベントに参加している常連ならともかくも、新規層は両方参加しようとは中々思わないだろう。そうすると、団などから参加するように言われることやその知名度からも、NSJの方が優先されることになる。このことはRe:Questの参加者が100人程度だったのに対し17NSJ Youth Nightは247人であり、珠洲にはいたけど業務で参加できなかった人を含めれば300人はいたであろうことから考えられるだろう。
- ・ では逆に両方参加したらどうなるかだが難点になるのはまず費用である。団などからの補助が出る人はともかくも、そうでなければ10万は超える大金を大学生が払うことになるが、これはとても厳しいことだ。さらに両方に参加するというはその期間アルバイトすることができないため、そういう意味でも参加費は高くなるし、そもそも休めないという問題も生じる。
- ・ 10月くらいにフォーラムをするのとは訳が違うことは今後考慮すべきだと思う。
- ・ 終わってみるととても短く感じましたが、天候や体力面ではちょうど良かったと思います
- ・ 私自身が来年以降社会人として働いているので上記の期間ぐらいが休暇をれる限界だと考えています。
- ・ 社会人でなくとも大学生にはサークル、研究、勉強など様々なしごらみがある為、3泊4日ぐらいが限界ではないかと思えます。
- ・ お盆に被せてくれればもう少し伸ばしても良いと思います。
- ・ 今年は日本スカウトジャンボリーと被っていたので、3泊4日で十分でした。
- ・ 今回は幸運にも職場の理解を得られ有給休暇の取得が出来、参加することができました。できれば、カレンダーがお休みのところでやっていただくと嬉しいな、と思います。
- ・ 学生のうちは空いている時間も多と思うが長すぎるのはちょっと
- ・ 学生が行きやすい時期を希望します。
- ・ 社会人はその気になれば休めるとしますので、若い人が沢山参加できるように。
- ・ 夏休み期間中の開催はありがたい。
- ・ 何事もほどほどがいちばんだと思います。短く感じたが、少し名残惜しいくらいでいいですジャンボリーほどの覚悟もないのに5,6泊はストレス溜まるんで班で喧嘩起きます。
- ・ なかなか休みを取りにくいので、3連休などをうまく利用してほしい。
- ・ 参加者が多く集められるのは、期間が短い方が良いとも思うので、そこの兼ね合いで3泊4日は妥当かと思う。
- ・ 3泊だと、中二日しかないなので、充実してましたがちょっと短かったかなと思います。長い分には途中参加なり早退など出来るのですが、自分としてはもっと長く皆と居たかったです。
- ・ 3泊～1週間くらい、それ以上でも構わない

大会総合評価



- 様々な経験をさせて頂きありがとうございました。ローバリングについて考える時間が少なかったのも、それは自団で考えてみようと思います。
- 班編成を展開するのをもっと早く教えて欲しかったです。準備が全然足りなかったです。
- ウォーターアクティビティがほしい。
- 当日スタッフを積極的に登用してもよかったのではないだろうか。将来的にはジャンボリーのように全体行事部や広報部などを設ければ大会としてのクオリティーも上がっていくように思われる。もちろんこれに伴って実行委員会も自ずと大きい組織になる。
- 広報部、もしくはきちんとした担当を設けた方がよかったように思われる。記録用、PRなど多岐にわたる効果が見込まれる。
- 熱中症などに備えて、もう少し安全管理を徹底した方がよかったかもしれない。安全・救護担当がいるとなお良かったかも。
- もっと新規層が参加しやすいように考慮すべきだと思う。常連はイベントがあれば参加するのだから、イベントを通してローバーを盛り上げようとするのなら、新規層の目線で出来るだけハードルを低くできるようにしてより多くの参加者を集められるようにすることが必要だと思う。
- 「野営大会」という名称を聞いて抱いていた私自身のイメージと乖離していた。ジャンボリーに近いようなイメージを抱いていたものの、**実際のところ隊キャンプの延長のような印象を受けた。**（だが実際のところムートはそういうものなのか？世界ムートなどの参加経験が無いので残念ながら比較できない）
- 全体的に参加者の目線に立ってシュミレーションしてほしいと思うことが多かったです。「そんなことまで運営に言わせるのか」「RSにもなって…」「団が悪い」とお考えだろうなとは思いますが、様々な不安を潰し、より大会の目的・目標を参加者が達成できるようにす

るのが、運営の仕事の1つではないかと思っています。(分かったようなことを書いてすみません)

- 同じ年代のスカウトが全国から集まって野営生活をするのはとても楽しく、今後のスカウト活動がより豊かになると思った。全体を通して、満足できた野営大会だった。プログラムの構成のバランスが良かったと思う。それに対して、気になった点もあった。
- **会場にもウォータージャグを設置する必要があったと思う。**当日指示が多かったように感じる。また、伝え方も、ルーズで違和感を覚えた。自転車にまたがったまま指示をしてくる態度は、リーダーでもしないと思う。食品の管理について、クーラーボックスを班備品として持ってきていたので、保冷剤があればよかったと思う。
- 様々なスカウト活動のあり方を生活班のメンバーや半日、一日プログラムのメンバーから知ることができましたので、今回の野営大会に参加した事は間違いではなかったの感じています。しかし、不満点も結構あります。
- 献立についてですが、**ありきたりなメニューから外れたものをと考えた結果として参加者に優しくない献立になってしまったという印象を受けました。**1日プログラムの日に朝ごはんはんと昼のおにぎりで両方を炊かないとならないとなった時は非常に苦労しました。また、日本の朝ごはんを意識したのか鮭の切り身がありましたが、必ずしも料理が得意な人が班にいるかわからないことや、ネット環境がないため調べられない事を考えると調理難易度が高いと思います。焼き魚は普通グリル調理でフライパン調理は結構難しい料理法です。
- ネット関連ですが、**なぜWi-Fiの使用を制限したのでしょうか？**制限した目的がよく分かりません。流石にこの歳にもなって野営大会でひたすら携帯いじる人なんていないと思いますし、リアルタイムでSNSに投稿できるという宣伝という面のメリットもあると思うので解放しておいた方が良いと思います。
- 閉会式ですが、スカウトホールでやるわけにはいかなかったのでしょうか？初めからアリーナでやるのは熱中症リスクが高いことはわかっていたはずですが。写真撮影だけアリーナでやればよかったのではないのでしょうか？**全体的に参加者への情報共有や運営の情報共有など滞っていた印象がありました**が、参加できたことは自分のスカウトとしての視野を広げることができたので良かったと思います。
- **しおりのデータで送られていたものと当日配布されたものの通知なしの変更はやめてほしい。**時間の変更や、特に食事の変更は配布されるという食材に合わせて持ってきていたものもあったため、遅くとも前日までには連絡してほしい。
- **配給食材を使い切れるような献立にしてほしい。**ココナッツミルク缶はレシピに対して多すぎだった。特定の料理でしか使わない調味料を使うものではなく、牛丼などの他にも使う調味料を使う料理にすべきだったのでは。その調味料を買うお金がもったいない。又はクックドゥなどのソースでも良かったと思う。
- **送ったメールには返信してほしい。**開催期間前に送ったメールが数件あったが両方とも開催日前に返ってくることはなかったし開催中に返ってくることもなかった。問い合わせ先として提示している以上、確実に連絡が取れるようにするべきだと思うし運営側の義務だと思う。それと運営側が知らせるべき情報を全ての参加者に知らせていなかったというのも如何なものかと思う。参加者は決して安くはない参加費を払っていることを十分に考えるべきだったと思う。
- ローバーナイトのような知り合いありきのプログラムはちょっとやめてほしい。今回は知り合いがほとんどいない状態で参加したので「誰かと一緒に」といった状況はやや困った。新しい友人を作るといった場において、コミュ力が高くて非常に高い人かほぼ全ての人が初対面といった状態でないと短い期間での友人関係の構築は難しいと思う。
- **安全の確保をしっかりとっておいてほしかった。**サイト点検が閉会式前にあった影響で長い間水分もとらずに日向の中で過ごしていた人が多くいた。ジャグを運営側が用意しておけば多少は倒れたのも防げたのかもしれない。又、炎天下の中閉会式を行うことは計画時にわかっていたのだから倒れた際の用意もしておくべきだった。

- ・ローバースカウトで企画運営するのは非常に大変だと思うし、わざわざ班サイトに連絡しにきてくれたりプログラムの準備をしてくれたりととてもよかった点も多くあった。だからこそういった細かい点が残念であり、少し考えたら絶対改善できたのではと思えてならない。特に熱中症対策はベンチャーの計画書にだってこの時期は絶対に書く。「長い時間をかけて準備を進めてきた」と言っていたが詳しい内容等はギリギリに詰め込んだのでは？とさえ思える抜けではないだろうか。ベンチャーを経験したはずの(大学ローバーの方は知らないが)ローバーが1年?の準備でこれか...と思わざるを得ない。

- ・もし次回も同じようなイベントを開催するならば、もう少し濃い準備をするべきだと思う。

* * * * *

- ・本当に毎年でもまたやって欲しいです！あと次はもっと宣伝して欲しいです！
- ・初めてのローバーで、これまでのクエストの経緯など何も知らなかったのも、その情報共有とかもして欲しいなと思いました。
- ・普段のRCJメンバーばかりで楽しんでいて、初めての参加者にとって輪に入りづらいのはあった。ただ、全体プログラムなどはよく考えられていたので自隊にも取り入れられるものは取り入れようと思う。
- ・入社1年目で色々ありました、参加して良かったと心から言えます。実行委員の皆さまありがとうございました！
- ・実行委員が楽しんでいたことが良かったです。
- ・1年以上前から、準備してくれて、辛いことがあったと思うのに、楽しんでいた、名前も覚えてくれたりしてくれたこと、ありがとうございました。
- ・かなり批判的な意見を書きましたが、感想を一言でいけば「とても楽しかった！！」につきます。
- ・実行委員会の皆さま、本当にお疲れ様でした。
- ・楽しかったの一言に尽きます。実行委員の皆様お疲れ様でした。そしてありがとうございました。大変なプロジェクトにも関わらず、実行委員の皆様も楽しそうにしてるので、すごく感心しました。ほんとボーイスカウト冥利に尽きるというか、ローバーまでやってるとこんなに楽しいんだぞって、他の人にも自慢したくなるような体験です。当初予定してた200人の半分しか来ないのが不思議でなりません。参加費も高いとか言われてるけど全然高く感じないです。あと大会ロゴも今風のデザインでカッコよくて気に入ってます。もっとグッズ作って欲しかった。あとRCJネッチリングの販売とかないのは残念でした。ローバーとか大学生がほとんどで金も多少持ってるから思い出を記念品とかお土産に込めたくなる気持ちもあるだろうしちったあ高くても売れると思いますよ。
- ・また、野営大会を今後も継続的に行っていくのであれば、日本連盟等から成人の支援はまだまだ必要で、広報的な面や金銭的な面だけに限らず、よりプロフェッショナルな体験活動をプログラムとして取り入れるための指導者、大会前後の準備支援者といったように、RCJがローバー年代のみで活動を展開するには限界があると感じる。実際に当初予定していた今大会の2倍の参加者がいた場合に今大会のような展開が行えていたかは不透明だが、実行委員をはじめ各委員の負担は非常に大きいものとなっていたに違いない。
- ・しかしながら、参加者として今大会は非常に充実したものであり、RCJに携わることが初めてというスカウトも数多くいたので、多方面にいい刺激となったのではないかなと思う。楽しかった。実行委員の皆様、お疲れ様でした。
- ・よく考えられたプログラムと自由な野営生活、楽しい仲間がすべて揃っていました。運営委員の皆さん本当にありがとうございました。
- ・とても貴重な経験でした。参加して良かったです。またみんなで集まりたいです。
- ・とても楽しい大会でした！運営委員会の皆様にとっても感謝しております。

- ・ 有意義な4日間をプロデュースしてくださりありがとうございました。
- ・ 実行委員10名で100名以上の参加者を受け入れること、様々な制限の中で実施することは本当に大変であったと思います。機会がありましたら苦労話でも伺いたいです。
- ・ ただ頭にふと浮かんだアイデアなのですが、各プログラムを活発な県連ユースに委託し、生活を実行委員が担うような運営方法もあるのかな... と思いました。
- ・ **次の野営大会楽しみにしています！**ありがとうございました。
- ・ 何はともあれ大会実行委員会としてのお仕事、お疲れ様でした。多方面から実行委員会内での苦労は耳に挟んでいたのが安堵すると共に、前年度運営委員会の一員としてとても感謝をしています。ありがとうございました。
- ・ 実行委員の皆様、プログラム委員会の皆様、事務局の皆様、運営していただいた全ての方本当にお疲れ様でした。私の知っている限り、**今回RCJの活動に初めて参加したという方ばかりでその方々は非常に楽しんでいる様子でした。そういう方を見ると私も嬉しくなりました。**今後もこういう活動がブロックで展開できるように頑張りたいと思います。ありがとうございました。お世話になりました。
- ・ 実行委員の皆さまにおかれましては、大会期間以外にも準備や会議とお疲れさまでした。とても良い時間を過ごすことができました。皆さまのおかげです。**本当にお疲れさまでした。そして、ありがとうございました！！**

以 上



【実行委員会】



委員長

出口裕理
でぐち ひろみち
千葉県連盟
船橋第5団



副委員長
(総務担当)

加藤大貴
かとう だいき
岩手連盟
盛岡第5団



副委員長
(プログラム担当)

船橋嘉一
ふなはし かいち
長崎県連盟
大村第1団



プログラムチーム

池田章浩
いけだ あきひろ
愛知連盟
名古屋第87団



プログラムチーム

枝迫雄大
えださこ ゆうだい
東京連盟
世田谷第10団



プログラムチーム

安達保乃香
あだち ほのか
山形県連盟
天童第1団



プログラムチーム

小馬加奈子
こま かなこ
大阪連盟
高槻第4団



総務チーム

内田椋太
うちだ りょうた
東京連盟
杉並第3団



総務チーム

三田あかね
みた あかね
静岡県連盟
三島第5団



総務チーム

玉井 鈴野
たまい すずの
愛知連盟
北名古屋第2団

【成人スタッフ】

日本連盟プログラム委員

同 上

同 上

中 村 友 一 (実行委員会アドバイザー)

竹 内 和 夫

佐 藤 成

ご支援ありがとうございました！



RCJ Re:Quest 実施報告書

2019年2月 発行

発行



公益財団法人

ボーイスカウト日本連盟

SCOUT ASSOCIATION OF JAPAN

〒167-0022

東京都杉並区下井草4-4-3

電話 : 03-6913-6262(代表)

ファックス : 03-6913-6263

E-mail : program@scout.or.jp

